

「人形」との交流

——愛着への関心から——

及川祥平

はじめに

言うまでもないことだが、人形供養は宗教研究の視角から議論されてきた。しかし、これを人の営みの問題として考えるうえでは、それが「廃棄」の手段のひとつであることを忘れてはならない。そして、廃棄するに至るまでには、その人形との日常における交流がある。⁽¹⁾ 供養せねばならないという認識の発生には、そのような交流のあり方が相関していると本稿では考えてみたい。私たちの手もとには、捨てるとしても「ゴミ」としては割り切れないモノ⁽²⁾ たちがあ
るわけだが、それは私たちが、それらをゴミとしては割り切れなくなるような関係をモノたちとの間に取り結んでいることを意味しているだろう。

本稿では二〇二〇年度および二〇二二年度から二〇二五年度にかけて東京都の私立大学で行

なった講義に対するリアクションペーパーから人と人形との交流の一端を取り出して報告する。現代の若者の状況という限定のもとではあるが、人形との交流をめぐる概況を把握することが本稿の課題である。

一、先行研究の整理と問題の所在

人形もまた生活に奉仕する道具である。したがって、道具供養研究の動向を概観するところから先行研究の検討をはじめめる必要がある。田中宣一は道具供養を「道具に対する単なる感謝ではなく、道具の正気抜き・性根抜き、魂抜きのため、すなわち籠る霊を抜き取ってその発動を未然に防ごうとして行なわれる」ものと捉え、「単なるモノにしてしまえば、捨てても安心というわけである」と供養を行なう人びとの心性を理解している〔田中 一九八七 八〕。一方、田中の議論をふまえつつ、宮田登は「小道具類にこもっている精霊が人間に一方的に排除されると、怨靈化する」と述べ、道具にこもった霊の怨靈化可能性をおそれて道具供養が実施されるとみている〔宮田 一九九六 一三四〕。たしかに、道具の供養は、無機物にも魂があるとする発想を抜きにして理解することはできない。しかし、後述するように、そのみでは人形供養という現象は説明することができない。人形供養は多分に新文化としての側面を有するためである。

人形供養が新しい文化であることは幾度も指摘されてきた。松崎憲三は、平成四年（一九九二）段階で実施されていた人形供養のうち、少なからぬ事例が昭和五〇年代以降、または平成になって開始されたものだったと指摘する〔松崎 二〇〇四 三九〕。人形供養が新たな文化であるという点に留意するなら、この現象は伝統的な道具観や靈魂観だけでは十分に説明できないはずである。そのような道具観や靈魂観がなぜ近年になって顕在化したのか、ということの説明できるような議論が求められる。

この問題はおそらく宗教現象として人形供養を考えるだけでは解くことはできない。カフラマン・ジャーヒットは、モノ供養をアニミズムに関連づける議論を批判しながら、技芸上達等の現世利益信仰の側面がモノ供養にあることを強調しているが〔ジャーヒット 二〇一八 二八七〜二九二〕、これもまた人形供養の近年の隆盛を説明する手がかりとはならない。

先述のように、人形供養は宗教施設を介した廃棄行動である。寶多國弘は廃棄行動としてモノ供養を捉えつつ、「不用になった愛用品を手放す正当な理由付けをしてくれる場」、または「使用可能なモノを手放す（廃棄する）後ろめたさの解消」という機能を見出し、その背後に「勿体ない精神」の復活と環境保全意識の高まりを指摘している〔寶多 二〇〇三 一〇三〕。ここで注意を要するのは、私たちはあらゆる愛用品を供養するわけではない点だろう。ある道具は供養し、ある道具は無造作に使い捨てる。また同じような道具であっても、ある時には供

養を思い立ち、そうではない場合にはゴミとして捨てる。供養されるモノとそうではないモノがあるということ、供養するときとしないときがあるということからは、人形供養とその他の道具の供養が共通する背景のもとで行なわれているわけではない可能性も示唆される。道具の属性に規定されつつ、多分に個別的な事情がそこに介在しているのではないだろうか。だとすれば、人形供養が「勿体ない精神」の復活や環境保全意識の高まりと相関して隆盛したとは理解したい。

廃棄の側面に注目した民俗学の人形供養研究としては、中村慎吾〔二〇〇四、二〇〇五〕や水口千里の議論がある〔一九九八〕。中村は神社のみならず、個人が行なう人形供養にも目配りし、近世文献や柳田國男の記述の中に、境界に遺棄される人形がみえることを指摘している〔中村 二〇〇五 一四～二五〕。また、寺社で行なわれる魂抜きや祓除が済んだ後も、人形を手元にとどめおくとは再びそこに魂の存在が認められるようになるという、興味深い知見も示されている〔中村 二〇〇五 二四〕。また、中村は、人形供養は「捨てる場所」や「捨て方」にこだわるかたちから、人形の物質性にこだわらないかたちへと変遷していることもおさえている〔中村 二〇〇五 二七〕。その背景には世相の変化があり、廃棄物処理の難しさがある。人形の焼却は有害物質発生の問題があり、寺社だけですべてを済ますことは困難になりつつあるわけである。

水口は短大生を対象にアンケート調査を実施し、有効回答数二四件のうち七件の回答で転居を契機として人形を処分したことを確認しつつ〔水口 一九九八 一五〕、人形供養発生の背景として戦後の住宅事情をあげている〔水口 一九九八 一六〕。すなわち、集合住宅など、多くの家財を所有し続けるだけの面積をもたない住まいの一般化と、転居の経験の増大により、生活のなかで捨てがたく思ってきたものを捨てる機会が増えたというわけである。水口はさらに、人形供養の背景として、その大量生産をあげている。人形にかぎらず、大衆消費社会の商品は、それらが消費される前提で、大量に生産され、大量に供給され、廃棄される。事実として、人形供養の実施主体は、宗教施設であるよりは人形の製造・販売各社やその組合組織である場合が目立つ。これには広告効果への期待に含め、顧客へのアフターケアの側面があることを松崎は指摘する〔松崎 二〇〇四 四四〕。以上から、人形供養は「半永久的保管対象からはずれた人形」の増加と、「人形を売りたい業者」「拝観者を増やしたい寺院」の利害の一致の上に成立していると水口は結論づけている〔水口 一九九八 一五〕。なお、同様の見方は他の研究者からも示されている。隈本正樹は学生へのモノ供養に関するアンケート調査において必ずしも高い関心がかげえなかったことについて「大学生を対象とした調査」の限界を確認しつつ、このような結果が「業者の主導性を傍証している」と述べている〔隈本 二〇一三 一一五〕。

さて、水口の議論は示唆に富むものであるが、寶多の議論と同様の課題を残している。まず、戦後に大量生産されるようになったモノは人形だけではない。また、狭小な住宅の増加と転居経験の増大によって処分が検討されるのも、人形だけではない。大量に生産され、転居等を契機に処分されるモノ一般の中で、一群のモノが新たに供養の対象になっているのだとすれば、それはどのような理由によるのかを考えてみる必要がある。実際、隈本の調査においては、人形については供養を行なったほうが良いという回答が多く、供養をめぐる意識傾向に「モノの種類ごとの特徴」があることを指摘している（隈本 二〇一三 一一五）。また、水口自身も「道具に霊が籠る」という観念は人形にはとりわけ顕著であると述べる（水口 一九九八 一一）。そして、その理由を考えるうえでの手がかりも、水口は示している。水口はアンケートで「人形をゴミに出すこと」に抵抗をおぼえた者の回答の中に「愛情」「愛着」というワードがあることに注目し（水口 一九九八 一三二）、これらの感情が「かわいそう」という感覚を導くと述べている（水口 一九九八 一六）。人形は、あらゆるモノの中でも、なんらかの理由によって顕著に愛着・愛情の対象になるものひとつであるというわけである。このモノに対して注がれる「愛着」「愛情」という感情についてはのちほど議論したい。

なお、こうした心性の問題を考えるうえでは、心理学等のアプローチにも目配りする必要がある。社会心理学の池内裕美は、二〇〇七年に西宮市の門戸厄神東光寺で行なったアンケート

調査の結果を報告している〔池内 二〇一〇〕。同調査の有効回答数は三九五件であり、人形供養に際する平均奉納数は七・五七体、五体以下の奉納者が二一七名で全体の五五％であった。奉納された人形はひな人形、着せ替え人形、ブライズマシン（UFOキャッチャー）の景品のぬいぐるみ等であったという。池内の調査成果において注目すべき点は、人びとの人形観に関わる部分である。供養のために人形を持ち寄った人びとが、その人形をどのように位置づけているのかといえ、**「インテリアやマスケットの一つ」**三二・一％、**「心をいやしてくれる存在」**一九・九％、**「大切な出来事の思い出」**一九・二％、**「お守り・見守ってくれる存在」**一八・四％であった。人形を単なるモノとして割り切る回答がトップに来てはいるものの、人形との間に取り結ばれる情緒的な関係を思わせるものが二位以下の回答に僅差で並んでいる。そして、これらの人びとが供養を決断した理由については**「ゴミとして捨てるのはかわいそう」**七三・七％、**「長い年月をともに過ごしてきたから」**六〇・六％、**「魂・命が宿っていると思うから」**五七・六％、**「持ち主や送り主の思いがこもっていると思うから」**五一・八％、**「人の形をしているものは捨てにくいから」**四七・二％という結果であったという。ここからは、供養の動機の多様性を読み解くよりも、人と人形との関係のあり方について問いをたてるべきだろう。すなわち、人びとは、人や生き物の形をしている事物と、長い年月を「ともにする」経験をどのように積み重ねたことで、そこに**「魂・命」**や**「思い」**が**「籠る」**という発想にリ

アリティをもつに至ったのだろうか。残念ながら、池内の議論はアニミズム的思考を供養行動に読み解くものであり、モノが「大切なもの」になるということ、すなわち、愛情・愛着の問題には踏み込んでいない。

ここまで整理してきた研究史をふまえるならば、人形供養という文化が近年になって拡大したことを理解するには、人形供養に結実するような人びとの人形に対する愛情・愛着がどのようなものであるかをおさえること、そのためにはそのモノとしての性質に規定されながら取り結ばれる、人と人形との関わり方を明らかにしていく必要があるといえる。以下、こうした点を分析するための理論的視点について検討を加えておきたい。

動植物供養にアプローチする高木大祐の議論は本稿の問題関心において大きな意味をもつ〔高木 二〇一四〕。高木は動植物供養を導くものとして、対象の「個」をめぐる認識をあげている〔高木 二〇一四 三三〇～三三一〕。例えば、鮭の供養は、「一尾ずつ殺す」という、個々の命を奪う手触りと無関係ではないという。ここでいう個ないし個性とは、対象が「ほかのものとは違う、これ」であるということである。「私が奪った『その』命」という、対象の代替不可能性の認識の発生が、供養という行動を導く。先述の愛情や愛着とは、壊れれば捨てて買い替えれば良いという認識（対象を代替可能なものとみる見方）に基づくものではなく、対象に情緒的に「かけがえのなさ」を見出すこと、またはそれによって発生する心性であると

いえる。

人形供養を理解するうえで、「ほかのものとは違う、これ」であるということ、すなわち、thisness (このもの性) の認識への注目が有効であるのは「柄谷 一九九四 一一」、「いわゆる人形が供養される」という社会的出来事としてではなく、「この『人形を廃棄する』という個人的／個別的な出来事に際する感情のあり方と密接に関わる営みとして、対象を分析できるからである。そして、愛着や個、thisness という観点をとる以上、個々人が特定の人形との関わりをどのように了解しているかに留意することになる。必然的に、自己と人形との関係を語る言葉、人形というモノをめぐる使用歴の語りを掬い上げることが求められる。こうした観点は、ペットという動物属性を、家族をめぐる物語のなかで把握した戸塚ひろみの作業とも響きあうものである(「戸塚 一九九一」)。

なお、人と人形との交流のあり方に注目した研究がないわけではない。例えば、宮脇かおりは人とモノとのコミュニケーションのかたちをぬいぐるみから考えている(「宮脇 二〇二三」)。ただし、宮脇は『ユリイカ』の特集号に寄せられた記事を分析したに過ぎず、人形・ぬいぐるみと人間との交流が、多くの人びとにおいて、現にどうあるかを解き明かしてはいない。他方、そのような生のデータを収集する機会としては、菊地浩平による人形参観のような魅力的な実践も行なわれている(「菊地 二〇一八、二〇二二、二〇二五」)。ただし、菊地のデータは

「人形文化」という広角の関心に基づく議論のなかで部分的に開示されるにとどまる。

以上をふまえ、本稿では個別的な人と人形との交流をめぐるデータを示し、Hisinessの意識の発現するあり方を探ってみた。なお、先の池内の議論にもみられたように、今日の人形供養の対象はひな人形などの日本人形に限られず、動物やキャラクターのぬいぐるみ類も少なくない。本稿でもあえてこれらを区別することはしない。そのため、いわゆる人の姿をかたどつたものではなく、「命あるものを象つた造形物」を広義の人形と捉え、いわゆるヒトガタをしたものを人形とし、包括的に述べる場合は「人形」という表記を採ることにする。^②その際、象られるものが犬や猫のような実在の生き物であるか、ミッキーやピカチュウのような架空の命であるかも問わないこととする。^③

次に、本稿で使用するデータを獲得した調査の概要をおさえておく。本稿では二〇二〇年度および二〇二二年度から二〇二五年度にかけて都内の大学で行なつた筆者の講義へのリアクションペーパーのなかに事例を求める。いずれの講義も人形供養が主題であり、リアクションペーパーは当日中にLMS経由で提出されたものである。こうした学生を対象とする調査はいくつかの大学で実施しているが、本稿で示すのは複数年度の調査がなつた二つの大学のものに限る。

大学A（二〇二〇年、二〇二三年、二〇二四年度調査）は東京都下に本部をおく私立大学で

ある。二〇二〇年度講義は、コロナ禍であったこともあり、Zoomで筆者の講義を視聴し、リアクションペーパーを提出してもらうかたちをとった。リアクションペーパーは筆者から特定のテーマについて問いかけるものではなく、講義をうけた感想を二〇〇字以上で自由に記述せよというものであったが、自身、または家族・親族が所有する人形について記述する受講生が多かった。これを受けて、筆者は翌週の講義に際し、所属大学・学年・氏名等を非公開としたうえでコメント記載内容を研究に活用することを許諾してほしい旨を履修者に伝え、個別に回答を得ている。本稿で事例として引用するのは、上記の許諾を取り付けたコメントである。なお、筆者からのレスポンスをふまえて、改めて自身と人形との関係を記述してくれた学生も存在する。当初提出されたリアクションペーパー一五九件のうち、自身と人形とのエピソードを記述してくれたコメントは七六件、翌週に提出されたものを含めると、回答学生の総数は七七名となる。ただし、事例としての利用を許諾する旨の連絡をくれた学生は二五名であった。かつ、許諾の返答はあっても、そのコメント内容が自身の体験を語るものではないのがみられた。以上を除外した有効な事例は二〇件であった。二〇二三年度、二〇二四年度は対面での授業であり、履修者には「家で大切にしている人形について、エピソードを教えてほしい」と伝え、事前に事例として使用する旨を説明し、許諾を得ている。なお、二〇二三年度以降の講義に際しても、義務として課してはいなかったため、全履修者がリアクションペーパーにエビ

ソードを記述したわけではない。二〇二三年度の有効な事例数は六二件、二〇二四年度の有効な事例数は二〇件であった。

大学B（二〇二二年～二〇二五年）は都内に本部を置く私立大学である。同様に受講後課題の告知に際し、人形に関するエピソードを記述するよう協力依頼をし、事例として使用することを了承のうえ記述してほしいことを伝達した。得られた回答のうち、有効な事例は二〇二二年度が五六件、二〇二三年度が四一件、二〇二四年度が二一件、二〇二五年度が六〇件であった。

以上を合算した事例総数は二八〇件である。大学A・Bとも、筆者の講義には大学二年生から四年生までが参加している。各学生の生年を確認することはできないが、おおまかにいえば、一九九〇年代末から二〇〇〇年代前半に生まれた世代のデータである。回答者のジェンダーについては、両大学ともLMSに学生の性別を表示する欄がなく、回答者の性自認を確認するすべがないため、考慮しない。ただし、男子学生であつても人形・ぬいぐるみを愛好することは珍しいことではなく、また、女子学生であつてもこれらのものに興味がない場合もある。

どの年度の調査においても記述内容を細かく方向づけることはしていないが、筆者の講義においては人形の文化史、人形供養の研究史、人形供養の様態、人形の怪談、愛着の問題等に触

れており、その影響が及んでいる可能性があることも確認しておきたい。例えば、廃棄に言及する例が相応にみられるのは、人形供養に関する講義へのリアクションであることに起因しているだろう。

次章では、以上の調査成果から、人と「人形」の交流のあり方を考えてみたい。

二、「人形」の位置付け

本章および次章では人と「人形」の交流のあり方を事例に即して検討していく。事例の一覧は本稿末尾の表に示す。本文中では部分的な引用のかたちをとるが、その際、表の事例番号を示す。事例番号は本文における揭示順ではないことに注意されたい。

さて、本稿で人形とぬいぐるみを区別しないことは先述の通りである。池内の調査においても、人形供養の場にはぬいぐるみ等が持ち込まれていたし、次の〈事例9〉にみられるように、使用の文脈においても、人形が用いられる場にぬいぐるみを取り込まれているケースがある。

〈事例9〉

私の実家では、人形やぬいぐるみを一度も捨てたことがない。そして、毎年ひな祭りには

ひな人形とともにその沢山のぬいぐるみたちを並べる習慣がある。なので、私は「ぬいぐるみを捨てる」ということをしたこともないし、見たこともない。今まで、なんで残したままにしているのか気になったことはなかったが、今日初めて母親に聞いてみたところ、祖母が「目と口がついてるものは粗末にしちやいかん」と言っていたからだそうだ。(大学A、

二〇二〇年度)

人形とぬいぐるみは、モノとしての性質はたしかに相違するところがある。ひな人形とぬいぐるみは明らかに異なるモノである。しかし、これらを別個のものとして切り分けて議論することが有効ではない局面も存在するといえる。(事例9)のようにひな祭りにぬいぐるみを並べる習慣のある家は一般的ではないかもしれないが、「目と口がついている」ものとして等しく敬意の対象としているということのようである。また、「大切にしている人形」のエピソードを問いかけた本調査において、数量的に多数であったのは、節供人形や日本人形であるよりは、子供の頃に遊んだ赤ちゃんの人形やぬいぐるみ類のエピソードであった。むしろ日本人形は他者的に認識され、恐怖の対象として語られる傾向にあった。

〈事例23〉

母が生まれ育った家の二階に日本人形があり、私は幼少期にその日本人形が怖くて一人で二階に行けなかったことを思い出しました。私が大切にしているぬいぐるみは、記憶にないくらい小さなころからある、シャチのぬいぐるみです。(大学A、二〇二三年度)

この点については、「日本人形はよくホラー映画や心靈映像に出てくるので怖くて不気味なイメージがある」(事例30)などと、なんらかのメディア作品の影響が語られる場合もみられた。ただし、慣れ親しんだ人形玩具であれ、ぬいぐるみであれ、なんらかの畏怖の感情が胚胎することがあり、それらは「人形」を放置している状況や廃棄せねばならない局面に際して顕在化するものでもあるらしい。例えば、次の事例である。

〈事例81〉

特に、キャラクターをモチーフにした人形や動物などの人形は、捨てたりしたら、恨まれたり悲しんだりしてしまうのではないかと思っています。逆に、家には雛人形もありますが、それは特に思い入れがないので捨てたとしても可哀そうとは思わないけど、呪われてしまいそうで怖くて捨てられないと思いました。私が、特に大事にしているのは推しキャラ

クターの人形でいつもその人形を抱えながら寝ています。(大学A、二〇二三年度)

〈事例103〉

ぽぼちゃんという知育人形で小さい頃は遊んでいた。遊ばなくなって久しく、放置していることに怒っているかとも思うとたまに怖くなるので、夜には視界に入れないようにしている。(大学B、二〇二二年度)

遊ばずにいる「うしろめたさ」が、「人形」の怒りや悲しみの感情を想像させている。「人形」が、そのような思いを訴えかけてきているかのようにふるまう事例もみられる。「大学生になった今、彼らを動かして遊ぶことはないが、目が合った、と感じる時「遊ばなくなっちゃってごめんね」とつい話しかけてしまうこともある」(事例190)というのである。

さて、人形・ぬいぐるみに命を幻視し、意志や感情を想定するのは、それらが命あるものを象っているのだから自明のようではある。命あるものを象るならば、必然的に、生き物が外界と相互関係を取り結ぶ(すなわち、コミュニケーションする)ために使用する器官をそこに表現することになる。(事例9)にもみられたように、目や鼻や耳や口を備えたモノを特別視することは、それが単なる客体にとどまらない可能性を想像させるからだろう。「人形」と「目

が合う」(事例190)ということは、「見つめる」というノンバーバルなコミュニケーションの主体としてそれらが想定されていることを意味している。「不思議とその子は家族全員目が合うように感じられて、きつと魂が宿っているのだと思っています」(事例107)との記述があるように、目が合うことは意思の疎通を錯覚させる。すなわち、「人形」に意思／魂を幻視させる。

しかし、この点は、「目や口があるから心がある気がしてしまう」などと単純化することはできない。目や口を備えたものの一切に「心」が見いだされるわけではないからである。むしろ、愛着があるからこそ、その意志や感情が気にかかるということもあるだろう。では、そのような愛着が育まれるような人形・ぬいぐるみとの交流とはどのようなものであろうか。

まず、人形との出会いのエピソードに注目してみたい。人形との出会い、すなわち入手の経緯に言及した事例は、①既製品を贈られた、②手作りの人形を贈られた、③購入の現場に立ち会った、という3種に整理できる。本調査では自ら作成した人形を手元で愛玩している事例は得られなかった。②については母や祖母などの家族が作成したものが挙げられていた。③は自ら買った場合と親などとともに買いにいった場合の両者を含めている。贈り物である場合、人形はなんらかの思い出を想起せしめるものとなり、それも相まって「他の人形とちがう特別な何か」という性格を帯びやすい。一方、購入の現場においても、人形・ぬいぐるみは大量に生産された製品としては認識されていないようである。

〈事例107〉

（筆者注・思い入れが強いぬいぐるみのひとつは）幼稚園くらいの頃に旅行先で父に買ってもらったヤマネコのぬいぐるみです。一目見て大好きになり、私の所に来てくれてからずっとお気に入りです。旅行の際や泊まりの際はいつも連れて行き、たくさん一緒に遊びました。段々と草臥れて、所々毛が抜けてしまっていますが、それでもとても可愛くて、大好きな事に変わりありません。初めて毛が抜けている事に気がついた時は、私のせいでこうなってしまった、と思わず泣いてしまうほど悲しみ、謝りました。今でこそ一緒に遊ぶ事は少なくなりましたが、ベッドに置いて、毎日一緒に眠っています。（大学B、二〇二二年度）

〈事例112〉

幼稚園生の頃に自室にはたくさんぬいぐるみがありました。特に黄緑色のぬいぐるみは私のお気に入り。ぬいぐるみでした。買ってもらった時の事は覚えていませんが、母に聞いたところ、店頭に並んでいるぬいぐるみの一つを手を取って「これは、パッピ―！」と突然名前を付けて離さなかったそうです。（大学B、二〇二二年度）

〈事例165〉

好きなキャラクターのぬいぐるみを買う時に、目や輪郭など個体差があるので、顔ができれば好みでかわいいものを選んで買います。自分で一番かわいいと思っている子をお迎えしているのでかなり大事に思っています。「この子じゃなきゃだめなんだ」という気持ちが強いので、前にぬいぐるみをなくしてしまつて新しく同じ商品を買に行きましたが、最初にお迎えした子よりは愛着がわきません。(大学B、二〇二三年度)

〈事例176〉

同じぬいぐるみの中から購入するものを選ぶ際に、一体ずつ心の中で話しかけながら決めています。母曰く、話しかけていると「この子だ!」と思うぬいぐるみが感覚的に見つかり、そのぬいぐるみと通じ合ったような感覚が得られるそうです。(大学B、二〇二三年度)

〈事例259〉

ぬいぐるみをよく購入しますが毛のフサフサ具合や顔のバランスなど個体差を意識して買っています。その個体差でこの子を手に取ったことは運命だ!と感じます。(大学B、二〇二五年度)

手作りの一点物でなくとも、「人形」には個体差があるという。したがって、店頭で購入する商品を検討する時点ですでに、人びとは「人形」になんらかの個性を見出そうとしている。毛の具合など、自身が重視するポイントを明確に認識している一方、「運命」〈事例259〉などの語を用いつつ、その選択は特別なものとして説明されている。すなわち、人びとは大量に供給される商品のひとつではなく、あらかじめ代替不可能な「それ」を購入している場合がある。それとも関わって、〈事例165〉に「お迎えしている」という表現がみられることにも注意したい。これらの「人形」は購入の時点で、あらかじめ「命あるもの」のように遇されることが約束されているかのである。なお、他の事例にも随所に「ある」ではなく「いる」など、擬人化した表現がみられる。いずれにしても、長く使い続けられるなかで累積していくコミュニケーションがある「人形」を特別なものに変えていくことがある一方で、「運命」的なものを感じながら、人は当初から「ほかのものとは違う、これ」とみなし得る「人形」を手元に迎え入れていることがみえてくる。言い換えれば、〈事例176〉が端的に示しているように、出会いの瞬間からコミュニケーションは始まっている。もともと、それは人と人との出会いにおいても、人と動物との出会いにおいても同様かもしれない。この場合、運命は「人形」の外形が好みであるとか惹きつけられる等の理由によって、それを意味付けることによって感知されているようである。

さて、以上のように入手された「人形」たちは、「必然的に」といって差し支えないだろう、「生き物」のように暮らしのなかに取り込まれる。

〈事例11〉

ぬいぐるみは家に沢山ありますが、どれも「いつ」「どこ」で手に入れたのか見れば思い出すことができます。名前をつけている子もいれはつけていない子もいて、思い入れもぬいぐるみごとに違います。例えばお気に入りの子のぬいぐるみは、小さい頃に一緒に寝たり、おままごとのレギュラー入りしたりと、一緒にいる時間が長いものが殆どですが、あまり思い入れの無いものは殆どおもちゃ箱の中に入れていました。お気に入りの子のぬいぐるみはチワワのバニラちゃんです。(大学A、二〇二〇年度)

まず注目したいのは「名づけ」である。〈事例11〉においてはお気に入りの子の「人形」に「バニラちゃん」という名が与えられている。ぬいぐるみへの命名が「唯一性」の発現を理解するうえで重要であることは宮脇も指摘している(宮脇 二〇二三 一一)。(事例11)にみられるように、名づけは必ずしもすべての人形に行なわれるわけではない。ミッキーなど、あらかじめキャラクターとしての名前を有する場合も自由に名づけが行なわれる一方、「愛玩用の場合

全て無名の動物のぬいぐるみで、個体の固有名詞を持ったキャラクターのぬいぐるみは自分だけの存在として愛着が持てないという声もある（事例198）。また、本来の名前や外形から創出された愛称程度のもも散見される。いくつかの事例を提示しておこう。

〈事例111〉

私はぐでたまというキャラクターが好きで、ぬいぐるみをいくつも持っているのだが、みんな「ぐでたま」なのにそれぞれ私や母が考えた名前があったりする。子どもではないのでそれで遊ぶといったことはないが、ただ部屋に置くよりも愛着は間違いなく増している。（大学B、二〇二二年度）

〈事例114〉

小さい頃気に入っていた人形はそれぞれ名前をつけていて、ミッキーやプーさんなど元々キャラクターの名前があるものもそれを無視して全く違う名前をつけていた。また、小さい頃は布団をひいて寝ていたのだが、そのときに気に入っている人形を布団の端っこに毎日ぎつしり並べていた。寝るときに並べて起きたら箱にしまうというのがルーティンになっていたのを思い出した。（大学B、二〇二二年度）

〈事例115〉

生粋の犬派で、家にそこそこの数、犬のぬいぐるみがあります。名前は、ゼロ歳のときに貰った初代がゼロ、愛犬（ロック）と同じ犬種のキャバリアがナックとヤック、数年前にIKEAで購入したシベリアンハスキーがハチ、先週購入した秋田犬がアキです。（大学B、二〇二二年度）

〈事例213〉

ぬいぐるみにはとても愛着がわいており、ほぼ生きているかのように扱っている。家で大切にしている豚のぬいぐるみがある。「ぶーちゃん」という名前をつけて、一緒に寝たり、リュックに入れたり車に乗せたりして旅行に連れて行ったりしていた。全く物欲のなかった三、四歳の私が初めて自分から欲しいと言ったものだったのでとても思い入れがある。（大学B、二〇二四年度）

〈事例230〉

小さい頃に名付けた「はなちゃん」というクマのぬいぐるみは、家族や友達間でも名前が浸透しており、もはや家族の一員レベルの存在感を放っている。小さい頃から友だちや妹の

ように接し、名付けて可愛がっているぬいぐるみは、私や家族の中で、「ただの人形」という域を超えているのだろうなと感じた。(大学B、二〇二五年度)

〈事例²³⁴〉

一緒に寝るぬいぐるみには名前をつけている。ただし、既に名前が付いている個体(ぼぼちゃんのような)にはあまり名前をつけない。ポケモンのぬいぐるみは例外であり、すべて別個体であるから自分の子の証として名前をつける。(大学B、二〇二五年度)

これらの名づけは愛着の表現であると同時に、所有意識の表れでもあるだろう。また、便宜のために名を与えるということもあり得る。筆者の最近の経験から例示するなら、二〇二四年に生まれた娘に買い与えた／買い与えられた「人形」のうち、とくに娘が気に入っているゴム製のキリンには、妻が名を与えた。ジブリ作品『崖の上のポニョ』を娘が熱心にみていたため、ポニョの元の名がキリンに与えられた。その名は、親である私たちがよく使用する玩具を互いに指示したり、娘に提示するために使用している。また、風呂で遊ぶ犬のかたちの水鉄砲にも妻が名を与えた。これも、娘に対して指し示すための愛称であった。これら以外に、いまのところ、特別な名前をもった「人形」は存在しない。「人形」への名づけは、所有者の個人

的な創案のみならず、母子間の、または家族内のコミュニケーションのなかで行なわれていく場合もあるといえるだろう。

これらの「人形」は玩具のひとつではなく、情緒的に、家族の一員のように扱われていると語るケースは少なくない。それらは兄弟姉妹やベットの代わり、または友人の代わりであるなどと位置付けられる。

〈事例 8〉

私は一人っ子という事もあってか一人でいる時間が多く、寂しい時人形に会話相手になつてもらっていた。(大学 A、二〇二〇年度)

〈事例 14〉

友達と遊びたくても遊べない時、人形を友達と仮定して可愛がったりおままごとをした経験があった。(大学 A、二〇二〇年度)

〈事例 16〉

私は一人っ子で家では遊び相手がいなかったため小さい頃は人形やぬいぐるみに話しかけ

たり、一緒におままごとをして遊んでいた。(大学A、二〇二〇年度)

〈事例54〉

自分が幼い頃から持っている、いつなぜ買ってもらったのかは覚えてないが羊のぬいぐるみがある。昔は、買い物へ行くにもご飯を食べに行くにも、外に出る時は必ず持ち運んでいた。名前を「メイちゃん」と名付けていた。私は一人っ子なため兄弟がいないことから、よくぬいぐるみで遊んでいた経験が多かった。その点がとても大きく、本当に生きている人に対するように話しかけたり接していた。(大学A、二〇二三年度)

〈事例145〉

私もかつて猫のぬいぐるみを大事にしており、自分のペットのように可愛がっていたことがある。家族がアレルギーで実家でペットが飼えなかったため、ぬいぐるみがペットの役割をしていたのかもしれない。ぬいぐるみに名前をつけて友達の家や外に遊びに行くときはずっと連れていた。(大学B、二〇二二年度)

〈事例153〉

小さい頃うちではペットを飼えなかったので、代わりにぬいぐるみを買ってもらって、名前をつけて可愛がっていました。櫛で毛並みを整えたり一緒に寝たりしていました。（大学B、二〇二二年度）

〈事例181〉

自分も犬のぬいぐるみを持っていてそのぬいぐるみは自分が生まれた時からそばにいるものである。もはや今となつては家族あるいはペットのように家にいて当たり前存在である。また自分自身このぬいぐるみがあるからこそ本物のペットを飼う事は何か裏切り行為のような気もしている。（大学B、二〇二二年度）

「人形」を遊び相手にしていたという思い出は「最初の友達みたいな感覚」と表現され（事例138）、一人っ子である者は兄弟姉妹のかわりとして「人形」を位置づけている。また、ペットを飼うことのできなかつた家庭では、それを代替する存在としてぬいぐるみを意味づけていた。すなわち、「ない」ものを埋めるものとして、「人形」は役割を果たしているということだろう。ただし、「人形」がどこまでも「人形」でしかないということは、関係の不均衡や不安

定さをもたらず。次の事例のように、「人形」をめぐる認識はつねに一定ではない場合がある。

〈事例98〉

中学生の時母親に貰ったシロクマの抱き枕を大事にしていた、貰って以来ずっと一緒に寝ている。シロクマに対する認識は様々で、単にぬいぐるみのシロクマとして扱っているときと、架空の家族や親友のように感じている時がある。名前を呼んだり話しかけたりはしないが、かといって顔もついていてただの綿の塊という感じもしないので、できる限り丁寧にあつかうようにしている。特に冬場はベッドから立ち去る時に丸出しのまま置いておくと寒そうなので布団をかけておく。寝ている間に頭を蹴ったりすると何か申し訳ないと思うので必ず顔側に頭が来るような向きにする。(大学A、二〇二四年度)

事例にみえるシロクマの抱き枕は、文脈に応じて単なる「ぬいぐるみのシロクマ」と「架空の家族や親友」の間を往還するという。単なるモノのようではないが、いつでも単なるモノに立ち返り得て、しかし、完全に立ち返ることもない、というのが、こうした愛着の対象となる「人形」の特徴であるといえるかもしれない。そのような関係のあり方が、先述のような「うしろめたさ」を生むともいえるだろう。

とはいえ、「人形」が受け止めていた感情は、決して軽薄なものではないようである。「私の妹は小さい猫の人形に名前をつけ愛着がわき、その後には飼うことになった猫の名前を人形と同じ名前をつけました」〈事例140〉といい、愛着を伴うぬいぐるみの名前を、実際に命を備えた猫が継承したというケースがある。また、身近に接することのできなくなったペットとの交流を代わってくれる、という事例も、この文脈で理解できるだろう。別離や死別の悲しみを「人形」は癒している。

〈事例276〉

私が今も大切にしている人形は、犬のぬいぐるみです。去年東京に引っ越してきたと同時にその人形を買い、実家にいる犬の代わりとしていつも一緒に寝ています。（大学B、二〇二五年度）

〈事例37〉

私の家には動物のぬいぐるみが一〇個ほどある。特に大切に小さい頃は枕の横に置いていたぬいぐるみが、犬と白くまのぬいぐるみの二つである。なぜ大切にしていたかという点、犬のぬいぐるみは小学校のころ祖母の家で飼っていた犬に似たぬいぐるみ。白くまのぬいぐる

るみは近くの動物園で大好きだった白クマのぬいぐるみ。何度も通いその白くまと家でも会いたいと買ったぬいぐるみである。どちらも小学生の頃に死んでしまったがずっと大切に残してある。いまは実家の自分の部屋に飾られている。(大学B、二〇二三年度)

〈事例223〉

うちでは昔小型犬を飼っていて、数年前に死んだのだが、去年に母が亡き犬と同じ犬種の犬の、掌に乗せられるような小さな置物を買ってきた。正直そんなに似ていないが(買ってきた母は知らないが、家族全員が同じように「あまり似ていない」という認識を持っている)、我が家ではそれが玄関に置かれて「亡き犬」の代理として時々見つめられている。立体物だからか、置き物のデイトールが細かいからか、何故か本犬の生前の写真よりも似ていないそれを見る方がずっとそこにいるような気がしてしまう。ぺたぺた触れて抱きしめることができるぬいぐるみではなく、触らずにじっと見ていることが当たり前の「置き物」だからこそ何故か変に胸に迫ってくると思う。返事が返ってこない、本犬でもないからこそかえって重ね合わせてしまうような。(大学B、二〇二五年度)

〈事例225〉

私は、小学二年生の頃に愛犬が急死してしまったのですが、ある日家族と出かけて愛犬と似ているトイ・プードルのぬいぐるみを偶然見つけ、愛犬の代わりのようにしばらく大切に、一緒に眠ったり、出かけたりしていました。時間が経つにつれて悲しみも癒えていき、ぬいぐるみも今はしまっておりませんが、まだ死を受け入れきれなかった当時は、実際には命を持たず動かなくても、代わりとなるような存在があることで、側に感じられる気がしていました。(大学B、二〇二五年度)

また、明確に追悼のために作成された「人形」としては、亡くなった「赤ちゃん羊そっくりの人形」に祈ったという〈事例280〉をあげることができるだろう。「人形」は、一人っ子にとつての兄弟など、あらかじめ「ない」ものの空隙を埋める一方で、「かつてあった」ものを代理することもできる。これらの事例からは、人であれ動物であれ、命あるものが担っていた役割、それらとの間に取り交わし得るコミュニケーションの代わりを、またはそれらに向けられたであろう感情を、「人形」が引き受けていることもみえてくる。しばしば「家族」のメタファーで表現されるのは、家族が分有している感情の応酬の役割を代理するものとして、「人形」が位置づけられているということでもあるだろう。

以上を念頭に、次章ではより具体的に人と「人形」との交流のかたちを検討してみたい。

三、「人形」との交流

人は「人形」とどのように接しているだろうか。すでに前章で示した事例のなかに、様々な交流のあり方がみえていた。本章では、そのような触れ合いのかたちを検討してみたい。

まず、多くの事例にみられるのは「話しかける」という関わり方である。「誤って落としてしまったときには『ごめんね』と謝ったり、家を出る時には『いつてきます』と言う程度には話しかけている」〈事例60〉というようなちよつとした声掛けから、悩み事を語り聞かせるというものまで、話しかける程度は様々であった。

〈事例83〉

私が家で大切にしているぬいぐるみは、ポケモンのポツチャマの人形で、兄からおさがりで、小学生低学年くらいの時にもらったものである。元々はぬいぐるみを振るとしゃべりだす仕様であったが、抱いて寝ている時に機械が邪魔で、電池の交換などが面倒になったことから、機械を抜いたただのぬいぐるみとして使用している。寝る時やさみしい時に抱いており、気を紛らわせるために使っていた。いつからか、親にも言えない事情や話し相手などと

して、ポツチャマに話しかけていた。直接言葉が返ってくるわけではないが、自分の中で都合のいい優しい言葉をかけてくれるとし、話していた。他にもぬいぐるみは増えているが、悩みを聞いてもらう時には必ずポツチャマに話しかけている。逆に他のぬいぐるみには話しかけていない。また、個人的に付けた名前はなく、ポツチャマと呼んでいる。(大学A、二〇二四年度)

〈事例131〉

家に毎日毎日家中の人間が話しかけているダンゴウオのぬいぐるみがいる。それはもういつ日本語を話してもまったく不思議でないくらい話しかけている。小さくて丸いダンゴウオの形に、母は家に赤ちゃんがいた頃を見ているし、私はそういう生き物が家にいたらかわいいだろうなと思っている。(大学B、二〇二二年度)

〈事例262〉

私の家には、等身大とまではいかないけれど、結構大きなハンギョドンのぬいぐるみがあり、そのハンギョドンに私は毎日話しかけています。「おはようハンギョドン」「今日も眠い」「疲れたバイトやめたい」「イライラしてるからこっち見ないで」などそのときのテン

ションや感情を垂れ流すように話しかけています。もちろん返事はないのですが、むしろそれがちょうどいいです。喋らないからこそ私は安心して何でも話せるし、愚痴も独り言もハンギョドンに絶対にも否定もツッコミもしてこない。笑いもせず、ただあのアホっぽそうな顔で全てを受け止めてくれるのがものすごく楽です。人間相手だと「そんなに疲れてるの?」「もっとポジティブに考えたら?」など、ありがたい言葉が返ってくることもあるけれど、今はただ聞いてほしただけのときにハンギョドンはそのただ聞くことに徹してくれます。(大学B、二〇二五年度)

〈事例 278〉

私はぬいぐるみが大好きで特に三歳の誕生日の時に買ってもらった某キャラクターのぬいぐるみはずっと大切にしています。そのぬいぐるみに対して、私は誰にも話せないような悩み事を話すことがあります。当然返事は返ってきません。しかしそれがむしろ心地よさを生むこともあると思います。(大学B、二〇二五年度)

前章では「人形」は実際の人間や動物が果たす役割を代替していることを指摘したが、ここで示した事例においては、「人形」は「代替」を超えた役割を果たしていることが見えてくる。

意見や回答は求めていないが、ただ話を聞いてほしい、という時が誰しもある。「人形」はそれのようなときに言葉を受け止めてくれる対象として、またはかけてほしい言葉を代弁させることのできる存在として、位置づけられている。なにもない壁に語りかけることでは、そのような欲求は満たされないということでもあるだろう。声が届いているかのように思わせてくれる、つまり「語る」「話しかける」という営みを引き受けてくれそうな、相互性という観点では不完全だが、欲求の解消という点では実際に命を備えたものよりも完全なコミュニケーションパートナーとしてのモノを、私たちは時に必要とする。多くの場合、目や耳を備えているであろう「人形」はそのような役割を担ってくれる身近なモノであるといえるだろう。ただし、こうした営みは遺影のような写真でも、仏壇や位牌でも、または「風の電話」のような通話のツールも引き受けることができる（佐々木 二〇一七）。AIに愚痴を聞いてもらうという近年の新文化も同様の視角で理解できるだろう。

すでにみたように、「人形」はただ話をきいてくれる受動的なコミュニケーションパートナーであるだけではない。「人形」を会話のなかに参入させるケースもみられた。

〈事例190〉

私の母はデイズニーキャラクターのプルートが大好きで、父と結婚する前に購入したプルー

トのぬいぐるみを今も大事にしている。そのぬいぐるみがどのように扱われてるかというところ、いわゆる「人形あそび」に近い。ただし、デイズニーキャラクターとしての「プルート」ではなく、「プルート」のぬいぐるみを使った、父と母によって形成されたオリジナルのキャラクターだ。父と母がプルートを喋らせる時には裏声を使って会話している。「おはよう！！今日は雨らしいよ、傘忘れないようにね」「おやすみ！！…プルと一緒に寝る？」といった日常的な会話もあるが、会話の中で母がふざけてわざと横暴なことを言った時に父が「あー！それは○○くん（父）が可哀想だなあってプルは思うけどお！」と言いながらプルートを動かしたり、母が「海行きたい」と言った時に父がプルートを持って「プルは次の旅行で北海道行きたい」と言ったりなど、ぬいぐるみを通じて意思を伝えることもある。母と父は、交代でプルートを動かして会話するという愉快的遊びを、コミュニケーションの一環として、結婚してから現在までの約二〇年間続けている。もはやウチの文化だ。余談だが、母には「プルートは私の棺に入れてね」と頼まれている。（大学B、二〇二三年度）

この場合の「人形」の役割は都合の良い聞き手ではなく、円滑なコミュニケーションを可能ならしめる架空の発話者といったところだろう。また、「人形」とのコミュニケーションをめぐって、家庭内のユニークな慣習が形成されていることも注目される。次の事例も「人形」を

めぐる家庭の慣習を語るものである。

〈事例170〉

我が家では、不思議な基準があり、人形と会話が出来るかどうかで、その人個人の人間性や温かさを評価することがある。叔母に、人形と喋ることが出来るんだね、よかったと母が言われていたと聞いた。人形と喋ることが出来るかは、そういった意味もあるのかもしれない。(大学B、二〇二二年度)

「人形」と会話することは、またはそれを愛玩することは、時として小児的な行為として認識されてしまうこともある。事例170はむしろそうした点を心の優しさや清らかさとしてポジティブに解釈している事例と思われる。

さて、先述の事例190は「話しかける」だけでなく「話をさせる」というものであった。「人形」はしばしば「ままごと」などのごっこ遊びに動員される。そのような「ごっこ遊び」は会話をするのみならず、多様なかたちで世話をする営みを内包する。

私は六歳の誕生日にもらった「メルちゃん」というお湯につけると髪の色が変化するという仕組みを持った人形をずっと大切にしてきました。一緒にお風呂に入ったり、髪をとかして着飾らしてあげたりととても愛着がありました。しかしだんだんとお湯につけても髪の色が変化しなくなったり、髪質が悪くなったりしたため捨てることになりました。とても思入れのあるモノだったのでとても悲しかったのを覚えています。（大学B、二〇二二年度）

「世話をする」という関わり方は、商品としての人形の用途にあらかじめ埋め込まれている場合がある。事例にみえた「メルちゃん」はパイロットインキ株式会社の「知育人形」または「お世話人形」であり、平成四年（一九九二）に販売開始された。入浴をとにもすることをはじめ、子供たちはそのお世話をして遊ぶ。「メルちゃんは赤ちゃんの人形なのですが、妹のよう可愛がっていました」（事例88）、「メルちゃんは唯一私が姉になれる人形であった。メルちゃんの髪の毛で三つ編みを練習し、自分自身で三つ編みをし幼稚園に行っていたこともある。今振り返ると、メルちゃんを通して、できるようになったことは少なくない」（事例172）、「人形というよりも妹のように扱っていたらしく、私が母に怒られることがあった時も「メルちゃん」のせいにするなど、姉妹ごっこを楽しんでいた」（事例184）、「幼稚園児時代にはまま

に憧れてメルちゃんをおんぶしたりしていた」〈事例25〉など、「メルちゃん」に対して「姉」や「母」として振る舞っていたという事例が複数寄せられた。

なお、メルちゃんと並んで著名な知育人形に「ぽぽちゃん」がある。こちらはピープル株式会社の商品であり、平成八年（一九九六）に販売開始されていたが、令和五年（二〇二三）生産終了となった。手足の関節が柔軟に動き、寝かせると瞼を閉じる仕様であり、「愛情のおけいこ」をひとつのコンセプトにしていた。ピープル株式会社のホームページによれば、同社創業者が、孫がぬいぐるみのお世話をしている姿を見て、「自分が母親から受けた愛情を分けてあげたくて、お世話をぬいぐるみにしてあげているのではないか、それは母性の芽生えなのではないか」との仮説をたてたところから「ぽぽちゃん」の開発に至ったという。⁴こちらも子どもが自身の娘のように接することが想定された人形であるということが知れる。掲載の許諾の得られなかったコメントの中にも「メルちゃん」「ぽぽちゃん」に言及するものが少なからずみられた。また、これらの商品名を挙げない事例においても、「母」や「姉」になったつもりで、「人のように」「人形」の世話をするあり方が示されている。例えば以下のものである。

〈事例3〉

自分も子供の頃は人形を抱っこしたり、一緒に寝たりしていたが、その人形には（筆者注・

それを通して自分が）母親の真似事をする役割が確かに備わっていたと思う。（大学A、二〇二〇年度）

〈事例142〉

私は幼稚園の時によく人形遊びをしていたが、その時はその人形に名前を付けて愛着を持っていた。着せ替えができるタイプのもので、自分がその人形のお姉ちゃんないしはお母さんになったつもりでお世話をしていたのを覚えている。（大学B、二〇二二年）

先述のように「人形」は家族の一員としてのなんらかの属性を与えられるが、それは同時に、それに接する者が、なんらかの新たな（または架空の）役割を獲得することもできる。「人形」を妹のように扱うことで、自身は姉のようであることができる。「人形」が知育上の意味を与えられるのはそのためであろう。

また、お世話をして遊ぶ用途の人形であれば自明のようであるが、これらの「人形」は人のように扱われることを求めるモノである点はあらためて確認しておいて良い。そして、それゆえであろう、愛情の偏りが、人形の怒りにつながるのではないかと想像されたケースもみられた。

〈事例178〉

私の家にはメルちゃんとおぼちゃんという二つの赤ちゃんの人形があったのですが、私はおぼちゃんの方だけを大事に扱っていました。メルちゃんは新しく綺麗であったのに対しておぼちゃんは姉のお下がり顔が汚れていたり髪が乱れていたりしたので不気味であり、怒らせてはいけないというような気持ちがありました。本当はあまり触りたくなかったのですがメルちゃんだけ遊んでいると怒るのではないかと思っておぼちゃんとも遊んでいました。また、メルちゃんの方はなんの躊躇もなく風呂に沈めたりしていたのですが、おぼちゃんに対してはいたずらで顔を触っただけでも申し訳なく感じて心のなかで「ごめんなさい」と言ったこともありました。(大学B、二〇一三年度)

「人形」にも求めるものがあるという発想は、前章でみた崇りや廃棄に際する恨みをおそれる発想と接続する。

次に検討してみたい「人形」との交流のかたちは「就寝をともにする」というものである。すでに示してきた事例の随所にも記載があった通りである。

〈事例27〉

小学校一年生頃に兄とおそろいの犬のぬいぐるみを親に買ってもらい、その日から枕元において毎日一緒に寝てました。名前を付けたり、話しかけたりなどはしたことはないのですが、毎日隣にいたのでとても大切です。(大学A、二〇二三年度)

〈事例41〉

私が大切にしているぬいぐるみは、高校二年生の時に友達から誕生日プレゼントで貰ったプーさんのぬいぐるみである。まだ、家に置いてから三年程しか経っていませんが私にとって一番大事にしているぬいぐるみになっている。私は、キャラクターの中で一番プーさんが好きである。このプーさんのぬいぐるみは友達がドイツニーランドに行って買ってくれたもので私はずっと小さな頃から欲しいと思っていたが高校生の私には値段が高く買うことができなかつたものである。このプーさんは家のベットに置いていて毎日一緒に横になって寝ている。私の中で寂しい時や悲しい時があるとプーさんのぬいぐるみはとても大きいので包んでくれるものになっている。(大学A、二〇二三年度)

〈事例45〉

私は、幼いころからぬいぐるみが好きなので、自分の部屋に飾ってあったり、ベッドと一緒に寝たりします。気に入って買ったたり、貰ったりしているものなのでやはり愛着が湧き、今二〇歳ですが、可愛いなあと思ってしまいます。ベッドに置いてあるぬいぐるみは特にお気に入り、なかなか寝れない時に何となくそのぬいぐるみを抱いて寝ると直ぐに眠りにつくことができます。(大学A、二〇二三年度)

ぬいぐるみはしばしば抱き枕の用途を兼ね備えている。またはぬいぐるみ風の抱き枕というものがある。そうでないとしても、ともに眠る対象としてぬいぐるみは位置づけられている。「ともに寝る」というフレーズがないとしても、所有する「人形」が枕元に設置されているケースは複数見いだせた。「ともに寝る」のはそれがあることと安心を得られる、安眠できるということでもある。その点で、「人形」は「眠り小物」としても機能している(高橋・高田二〇〇一)。それゆえであろう、「人形」に守られているという発想も垣間見えた。

〈事例2〉

幼いころは夜眠るのが怖くて枕元にぬいぐるみを並べていた。誰に教わったわけでもない

のだが、「ぬいぐるみが守ってくれる」と思っていた。(大学A、二〇二〇年度)

〈事例7〉

あまりよくないとされる方角にお気に入りのぬいぐるみを置いて守ってもらったり、怖い夢を見ないように枕の近くに夢を食べてくれそうなぬいぐるみを置いたりする(私の部屋にはモデルがゴキブリでなんでも食べてしまうことからステイッチのぬいぐるみがいる)。(大学A、二〇二〇年度)

就寝中に守ってくれる存在として「人形」を配置するあり方には、相応に歴史性を見出し、ても良いかもしれない。這子や天児は枕元にあつて子どもを守ることが期待されていた。無論、これらは身代わり人形であり、事例にあるような「見守る」存在とはやや性格を異にするが、「人形」は従前から枕頭に配置されるモノであったということとは注目しておいていいだろう。這子や天児と直接的に関わるものではないが、次の事例は乳児のころに一緒に寝かされていたぬいぐるみのエピソードである。

〈事例272〉

私が生まれる少し前に母の友人が私のために用意してくれたぬいぐるみがあった。フモフモさんという名前のぬいぐるみで家では「ふもさん」と呼ばれていた。彼女は赤ちゃんだった私の横にいつも寝かされていて母たちはふもさんを私のお姉さんみたいなものだと言っていた。小学校の低学年くらいまではずっと一緒にいて、一歳の時沖繩に行った時も一緒に飛行機に乗った。ふもさんは私のことを見守り続けてくれていて、今でも彼女には感情がある気がしている。

高橋直美・高田公理らが分析する睡眠文化研究所の調査（一九九九年八月～一〇月）でも、眠り小物として「ぬいぐるみ」を並べる例は相応にみられた〔高橋・高田 二〇〇一 一四七～一四八〕。いずれにしても、世話をする／庇護する対象として「人形」がある一方で、これらの事例からは、その親密な関係の意識に基づいて自らを委ね、庇護を期待する対象としての「人形」のあり方がみえてくる。

さて、気に入った「人形」は常にともにいる対象である。したがって、ともに入浴し、食事をする場合があり、また、ともに外出する。外出については、日常の移動をともにしている／いたという例と、事例272の「ふもさん」のように旅行に連れていくという例とを区別すべきか

もしれない。「小学生のとき複数人で友人の家に泊まりに行ったが、四人中三人（私含め）が就寝の供にするためにぬいぐるみを持ってきていたという思い出がある。当時は慣れ親しんだぬいぐるみに安心感を覚える人は多いのだと驚いた」（事例106）という例があるように、旅先に「人形」を連れていくのは就寝時に必要であるためという側面もあるだろう。また、近年の「ぬい活」の一環であるケースも想定すべきである。次の事例は日常をともしにしているというものである。

〈事例187〉

小さい頃からシルバニアファミリーを大切にしています。幼少の頃はミニチュアの家の中で家族のままごとをさせていましたが、大学生になった今では毎日持ち歩いています。ご飯を食べる時はカバンから出して一緒にご飯を食べている気分を味わっています。私の場合は可愛いのでずっと大切にしています。小さい頃は自分の思うように動かして遊んでいました。が、今は一緒に居たいという気持ちが大きいです。（大学B、二〇二三年）

注意が必要なのは、〈事例187〉が近年の「ぬい活」をめぐる新世相の刻印された事例なのか、そうではないのかという問題である。例えば次の事例はデータの解釈にあたって世相を考慮す

べきことを示している。

〈事例257〉

サンリオのはなまるおばけというキャラクターのぬいぐるみをいつもバッグに入れて歩いています。友達と映えスポットに行く時や、美味しそうな飯屋さんに行く時、またドライブやテーマパークに行く時など、様々な場面で一緒に居ます。もちろん、大学にも連れてきています。ぬいぐるみを持ち歩くと可愛いのでテンションが上がります。また、自分だけではなく最近の若い女の子達はぬいぐるみをバッグに付けたりして持ち歩いている子が多いようです。

いわゆる「ぬい活」は、従前から行なわれていた営みが現象として名づけられたに過ぎないのか、名づけられたことで実践しやすくなり、実施者の裾野が拡大したのかは現状明らかでない。こうした問題は複数世代を対象とする調査を要するため、本稿では踏み込みえないが、問題の登録のために付言しておきたい。

以上、事例に即して人と「人形」との関係に検討を加えてきた。最後に、本稿の収穫を整理し、ひとまずのむすびとしたい。

むすびにかえて

本稿では「人形」の廃棄に際して供養を要すると考える人びとがいるという事実を検討するため、人と「人形」とが交流するあり方に注目してきた。

「人形」は「命あるもの」を象ったモノである。だから、人は「人形」に容易に「命」を幻視する。そうであれば、それがどのようなかを考える必要があるが生じる。または、人は「人形」と疑似的なコミュニケーションをとっている。交流という、相互性に留意した観点のもとで人と「人ではないもの」との関係を把握するならば、そのコミュニケーションに「疑似的な」という但し書きをいれる必要はないかのようであるが、その仮構的あり方に注目することにはなお意味があるとも思われる。「人形」はしばしば「命あるなにか」を「代理」し、その役割を「代行」してきたからである。また、「人形」は命あるもののように扱われるが、徹底して「命あるもの」としては扱われてはいない。例えば、「命あるもの」の本来的にもつ過剰さを、「人形」はもたない。だからこそ、生身の人間では容易に引き受けえないような「一方的な働きかけの対象」としての役割をおだやかに務めることができる。したがって、その「命」が幻視されたものであることにこそ、意味があるともいえる。人形の *thisness* は、そのように「命」を仮構する諸実践のなかで立ち現れるのである。

ところで、本稿の事例群は、誤解をおそれずいえば、特段ユニークなものたちではなかった

と認識している。民俗学は、ありふれた生活者の立場から、人のありふれた営みを、「ありふれたるもの」として記述しなくてはならない。私たちは「人形」を使って、なにをしているのか。または、なにをしてきたのか。本稿で考えたかったのは、そのような問題の「ありふれた次元」であったともいえるだろう。「人形」を捨てがたく思い、しかしいつかは捨てねばならないということは、そのような日常の悲劇なのである。

注

(1) 交流がないということもまた、交流のかたちであると本稿では考える。例えば、しまい込んだまま一顧だにしないという状況もまた、人が「人形」との間に取り結んでいる関係のかたちである。そのような関係が人に惹起する感情があることは本文で後述する。

(2) この点について、山川志典氏より、ぬいぐるみの愛される理由にその質感があり、いわゆる人形と区別すべきではないかとの意見をいただいている。人とモノとの関係を検討するうえで、その素材的特性をも考慮すべきではあるが、本稿の事例はこの点に立ち入るうえで必ずしも十分ではない。後日の課題とする。

(3) 本稿における対象の弁別指標は、あくまでも外形として「生物を象ったもの」という程度にとどめておきたい。ただし、菊地浩平は「どこまで人形か」を問うなかで、「どこかの誰かがほんの束の間でも単なるモノとは異なるなにかを見出す瞬間、ひとつのかたちをしていようといまいとそこには《人形》が生まれ得る」として〔菊地 二〇一八 一〇〕、ルンバや映画『ラバー』（監督・クエンティン・デュ

ピュー)の主人公であるタイヤをも議論の射程に含めている。本稿のもとになった現在学研究会における二〇二三年の口頭発表に際しても、倉石あつ子氏より、座布団を赤ちゃんに見立ててままごと遊びをしたという思い出をお聞かせいただいた。いわば「人形」性とでも呼ぶべきものをあらゆるモノが備え得るといふ菊地の見方には賛意を示しておきたい。

(4) ピープル株式会社 <https://www.popo-dan.com/> 二〇二五年一月三〇日アクセス

参考文献

- ・柄谷行人 一九九四『探究Ⅱ』講談社(学術文庫)
- ・菊地浩平 二〇一八『人形メディア学講義』河出書房新社
- ・菊地浩平 二〇二二『人形と人間のあいだ』NHK出版
- ・菊地浩平 二〇二五『人形は人間のなんなんだ?』NHK出版
- ・隈本正樹 二〇一三『現代日本のモノ供養―新聞報道による鳥瞰と大学生意識調査から―』中央学術研究『所紀要』四二
- ・佐々木格 二〇一七『風の電話―大震災から六年、風の電話を通して見えること』風間書房
- ・高木大祐 二〇一四『動植物供養と現世利益の信仰論』慶友社
- ・高橋直美・高田公理 二〇〇一「ねむり小物の「生態学」」吉田集而編『眠りの文化論』平凡社
- ・寶多國弘 二〇〇三『消費者の廃棄行動とモノ供養祭・感謝祭について』『同志社商学』五四巻五・六号
- ・田中宣一 一九八七『道具の供養―不要道具の処分法にみる民具観』『民具マンスリー』二〇巻五号
- ・田中宣一 二〇〇六『供養のこころと願掛けのかたち』小学館
- ・戸塚ひろみ 一九九一『ペットと家族の物語』上野千鶴子・鶴見俊輔・中井久夫・中村達也・宮田登・

山田太一編『家族のフォークロア』（変貌する家族4）岩波書店

- ・ 中村慎吾 二〇〇四「人形供養という作法」『長野県民俗の会会報』二二七
- ・ 中村慎吾 二〇〇五「人形供養にみる物の捨て方」『長野県民俗の会会報』二二八
- ・ 松崎憲三 二〇〇四『現代供養論考』慶友社
- ・ 水口千里 一九九八「現代供養事情―大須観音人形供養を例として」『近畿民具』二二一
- ・ 宮田登 一九九六『民俗学への招待』筑摩書房
- ・ 宮脇かおり 二〇二三「ぬいぐるみという記号からコミュニケーションを捉え直す」『記号学研究』一

謝辞

本稿の議論には、成城大学特別研究助成「現代における産育儀礼の創出と変容をめぐる民俗学的研究」（二〇二二年度～二〇二三年度）および同「科学技術世界における民俗信仰の変容をめぐる基礎的研究」（二〇二四年度～二〇二五年度）を遂行する過程で得られた成果を使用しています。

事例一覧

大学 A 2020	1	人形を処分する際、長く愛用していたものや愛着があるものは毎年初詣で神社を詣れたときに人形供養へ出してやる。それほど使わず愛着のなかった人形は、家庭ごみとして廃棄していた。ただ、人形を入れたごみ袋の中に楯を入れ、ありがたうという感謝の気持ちは伝えてから袋の口を閉めている。廃棄することへの申し訳なさと同時に、どこか「捨てたら恨まれるのではないか」という恐怖も少なからず感じている。
大学 A 2020	2	幼いころは夜眠るのが怖くて枕元にぬいぐるみを並べていた。誰に教わったわけでもないのだが、「ぬいぐるみが守ってくれる」と思っていた。
大学 A 2020	3	自分も子供の頃は人形を抱っこしたり、一緒に寝たりしていたが、その人形には（筆者注・それを通して自分が）母親の真似事をする役割が確かに備わっていたと思う。また、自分が一番大事にしていた人形は何か他製品のおまけについてきた人形だったらしく、値段で比べると家中にある他のどんな人形よりも安かったが、愛着面というところ一番大切に可愛かった記憶があるので、値段や素材の価値に関わらず、私にとっては大切なものである。
大学 A 2020	4	昔はぼちやん人形やリカちゃん人形を「これらの人形で遊ばなくなったらからどうするか」と家族で話し合い、こういう人形を普通に捨てたら可哀そうとか怖い、神社とかに持って行った方がいいのだからうかなど話し合いました。結局布に包んで普通に捨ててしまった。また家にはまだぬいぐるみが見出がある。
大学 A 2020	5	私が小さい頃に遊んでいた人形（虹ぼちやんという名前）は供養に出そうと思っています。私の中で、特に思い入れがあるというのもそうですが、これでゴミ箱に入れるのはちよつと祟られそうな気がするというのが少しはあります。魂が宿るといふ考えを全面的に信じているわけではないのですが、そのまま捨てることにはあまりいい気はしません。一方で、猫などのぬいぐるみに関しては掃除の際に捨てていたりします。おれの言葉を添えることはありますが、燃えるゴミに出しています。
大学 A 2020	6	私は小さい頃から人形が好きで、愛玩用の人形=ぬいぐるみをたくさん持っている。幼い頃からずっと一緒にいるものが多く、今もベットの側にいる。しかし数は恐らく100体？匹？を超えている。持て余している状態である。小学生の時に引越してをして、その際に人形を大きな袋にまとめたまま出していないものもほとんどだ。約10年放置してしまっている。それは衛生的にもその子たちにとっても良い環境とは言えず、どうしようかずっと考えている。どの子も名前がついていたり一緒に寝たり旅行に連れて行ったりと愛着がある。捨てるという選択ははどうしても選べずにいる。人形供養も考えたが、供養によって人形から私への気持ちは無くすことができて、私から人形への気持ちは上手く消化できない気がする。燃える瞬間や流される瞬間を見ることはできない。私は人形を友達や家族、ペットなど愛情を注ぐ存在として認識している。ずっとどうしたら良いのか悩んでいる状態。

大学A 2020	7	全く断捨離ができないイナズなので、部屋を整理した際にベントいっぱいになるぐらいのぬいぐるみが埋れると、どの子も少しでも思い入れがあり、全く捨てることできない。そろそろ足の踏み場もないぐらいのぬいぐるみで部屋がいっぱいになるのでそろそろ処分を考えていた。どのぬいぐるみにも思い出が必ず一つはあり、あまりよくないと思われる方角にお気に入りに入りぬいぐるみを置いて守ってもらったり、怖い夢を見ないように枕の近くに夢を食べてくれそうなぬいぐるみを置いたりする（私の部屋にはモジルがゴキブリでなんでも食べてしまうことからヌナイグチのぬいぐるみがいる）。たいそうな願いではないものの自己完結ながらも自身の中で助けてもらっている＝ぬいぐるみに意識や感情があると私が思い込んでいたから、捨てられない。
大学A 2020	8	私は一人っ子という事もあってか一人でいる時間が多く、寂しい時人形に会話相手になってもらっていた。
大学A 2020	9	私の実家では、人形やぬいぐるみを1度も捨てたことがない。そして、毎年ひな祭りにはひな人形とともにその沢山のぬいぐるみたちを並べる習慣がある。なので、私は「ぬいぐるみを捨てる」ということをしたこともないし、見たこともない。祖母が「目と口がついているものは粗末にしちゃいかん」と言っていたからだろうだ。
大学A 2020	10	自分は人形やぬいぐるみといった類いのものを捨てたことがない。自分の家では捨てられないので倉庫にしまったり、他の人にあげたりしていました。
大学A 2020	11	ぬいぐるみは家に沢山ありますが、どれも「いつ」「どこ」で手に入れたのか見れば思い出出すことができます。名前をつけている子もあればつけていない子もいて、思い入れもぬいぐるみごとに違っています。例えばお気に入りに入りぬいぐるみは、小さい頃に一緒に寝たり、おままごとのレギョラー入りしたりと、一緒にいる時間が長いものが殆どですが、あまり思い入れの無いものは殆どおもちや箱の中に入っていました。お気に入りに入りぬいぐるみはチワワのバリャちゃんです。
大学A 2020	12	知いころ、大のぬいぐるみに名前を付けよく話しかけていました。今年の自粛期間に大掃除を洋服やプリントなど多くのものを捨てたのですが、一緒に過ごした思い出からかぬいぐるみには「かわいそう」という気持ちが出てきて、捨てるのに抵抗がありました。
大学A 2020	13	実家にある知いころから大切にしているぬいぐるみ。すでにポロポロで布切れのような状態ですが、極みを話したり、癒してもらったりした経験から、思い入れがあり、捨てることに抵抗を感じています。また、日本人形が祖父の家にあります。処分することにどこか悲しさを感ずる人も捨てられません。そのため、人に譲ったりして対策しています。
大学A 2020	14	友達と遊びたくても遊べない時、人形を友達と仮定して可愛がりたりおままごとをした経験があった。

「人形」との交流

大学A 2020	15	以前から、家にある人形を供養してもらいたいと考えていた。前に、私の住んでいる近くにある農協で2日間程度だけ、「供養してもらいたい人形を持つてきてもらえたら、後でお寺さんで供養してくれませう」ということをやってきたときがあった。その時は人形供養を頼むことはしなかったが、後から考えてみると、あの時やっってもらえればよかったと思った。なぜかというと、私が小さい頃によく人形を買ってもらって遊んでおり、それがなくなったら人形を処分したいと考えるようになったからである。しかし、「人形には魂がこもっているように思える、捨てることなんてできない」という祖母の考えから、人形の処分を速回しにしていた。そうしている間にその祖母の考えを何度も聞かされることが多くあり、次第に自分もそう考えるようになった。
大学A 2020	16	私は一人っ子で家では遊び相手がいなかったため小さい頃は人形やぬいぐるみに話しかけたり、一緒におままごとをして遊んでいた。最近家の片付けをしていて今までの不要な物を処分していたが、ぬいぐるみや人形で愛着があるため、いらぬと思うぬいぐるみや未だに捨てられないでいる。ぬいぐるみや人形の形はもう使わないとわかっているが、人の形をしているため霊的な意味で処分することは怖いと感じる。夜寝るときにぬいぐるみや枕元に置いて寝ると生気や運氣を吸い取られると聞いたことがある。
大学A 2020	17	幼いころに自分と親密である人を入形に当てはめた経験があった。
大学A 2020	18	私自身、小さい頃からぬいぐるみや人形を捨てる時に情が湧いたり罪悪感があったりして捨てることを躊躇うことが度々あった。特に幼い頃から持っているぬいぐるみは未だに捨てられずにいたりする。ぬいぐるみや人形に限らず物を断捨離する際に誰からももらったか、どのような思い出があるかをすごく重視してしまう。親戚の葬式の際に、猫好きの親戚のために寂しくないようにと棺桶に猫のぬいぐるみを入れたのを覚えている。あくまで寂しくないのであるが、いようにとの意図であったか。
大学A 2020	19	フイギョアやぬいぐるみを幼いころから持っています。一度手放すことも考えましたが、愛着があり手放すことができなかつたので、現在でも大事にとっとしてあります。私は幼いころ、人形以外にも昔描いた絵や、キラキラタマや生き物などの形をしたものに対して、なかなか捨てられません。また、商品のパッケージにキラキラタマがかかれていたのだけでも捨てられませんでした。フイギョアやぬいぐるみ、自分で描いた絵は愛着があるので捨てられません。
大学A 2020	20	リカちゃん人形を神社に持って行ったことを思い出した。正直、特にその人形に思い入れがあったわけではなかったが、リカちゃん人形に關する怪談などが多く存在しているため、捨てるのは少し恐ろしさがあることから、供養してもらいに行った。

大学A 2023	21	私の家では、小さい頃に家族旅行で行ったアエラランドにて購入したミツキーとミニーの大きなぬいぐるみが保管されている。当時の私の身長と同じくらいのカイズだったものなのでかなり大きく、保管する場所に困った結果、現在はクローゼットの中に片付けられている。何度か捨てようかと試みたが、家族全員の思い出という事に加え、長年自宅に保管してあるが、捨てるのが悪い感じがして中々捨てられずにいる。
大学A 2023	22	私が大事にしているぬいぐるみは2つある。1つ目は、2年ほど前に彼女からもらったアエラランドのグッズのぬいぐるみである。私自身ぬいぐるみを持っていないからため、初のぬいぐるみなのですごく愛着を持っている。特に撫でたりいじったりするわけではないが、常に枕元に置いて過ごしている。2つ目は、アニメや漫画で人気のあるスパイファミリーのボンドという犬のぬいぐるみである。このぬいぐるみはクレヨンゲームで取ったので愛着がある。先ほどのグッズと比べて、2つを眺めて過ごしている。
大学A 2023	23	母が生まれ育った家の二階に日本人形があり、私は幼少期にその日本人形が怖くて一人で二階に行けなかったことを思い出しました。私が大切にしているぬいぐるみは、記憶にないくらい小さいところからある、シヤチのぬいぐるみです。30〜40センチほどの大きさで、そのぬいぐるみだけ、ずっとベッドにおいてあります。小さなころに家族で水族館に行ったときに買ったものがあります。強い思い入れがあるわけでもありませんが、まれに、どうしても寝付けなかったとき、抱いて寝ることがあります。買った時の記憶はないし、名前を付けたら、話しかけたりすることはないけど、小さいころからずっとあるものなので、大切なぬいぐるみです。
大学A 2023	24	我が家の大切なぬいぐるみはネコグッズです。これは「干物妹!うまるちゃん】主人公のうまるちゃんが家で抱きしめてたぬいぐるみなので、私もお気に入りです。これも購入しました。ネコって呼んでいます。実物は長さ145 cm × 20 cm で細長い胴体に青い水玉模様の猫です。いつも使えばベッドで私と寝ています。
大学A 2023	25	わたしも実家に多くのぬいぐるみがあるが、毎目にするものであり、私たちと同じように目や口もついていることで、知らぬうちに人形の表情を意識するようになっていく。そのため、人形を超えた存在として認識しているようにも思う。そういつた背景から、やはり愛着が湧き、家族同様に大切なものになるケースが多いと感じる。わたしは自分のお気に入りのぬいぐるみはペットサイイドに置いていることが多いため、自分の部屋であり、1番リラックスした状態の自分をぬいぐるみに対して見せているということから、より近い存在として感じているのではないかとと思う。家で大切にしている人形はあるが、幼い頃からずっと一緒に過ごしているというものはない。そのため、特にこれといったエピソードのある人形がある訳では無いため、そういう思い入れのある人形を持っている人を見るといつもいいなと思っていた。

大学A 2023	26	ゲームセンターで取ったうさぎのぬいぐるみを大切にしている。取ったと言っても自分で取ったものではなく、欲しく取ろうとしたもので、決めた額の中で取れなかったものを友達が取って渡してくれたもので、6年くらい毎晩抱きながら寝ている。今のところほつれもないし、気に入っているので、実家にいる間は絶対に捨てないと思う。実家を離れたとしても持つていくだろう。この歳まで気に入ったままだったため、これから先自発的に捨てることは無いと思う。取り返しのつかない汚れなどがついたらさすがに捨てるかもしれないが、そう言ったとしても捨てることにはかたがた抵抗があると思う。そのくらいには愛着がある。
大学A 2023	27	人形は個人的に怖いイメージがあり、あまり集めたりしておらず、買ったとしても乱暴な扱いはしないようにしてきました。小学校1年生頃に兄とおそろいの犬のぬいぐるみを親に買ってもらい、その日から枕元において毎日一緒に寝てました。名前を付けたら、詛いかけたりはしたことはないのですが、毎日隣にいたのでもってとても大切に。現在は一人暮らしをしていて、そのぬいぐるみは持つてきていないので、実家に帰った時にそのぬいぐるみを見ると、実家に帰ってきたという実感と安心感があります。
大学A 2023	28	私は人形のなかでもぬいぐるみを多く持っています。自分でお店で買ったものだったりも買ったものだったり景品でとったものだったり種類は様々です。持つているぬいぐるみと長い時間を過ごせば過ごすほど思い入れが強くなり手放しづらくなってきました。手放すときは捨てるのは心苦しいのでリサイクルショップにもっていくようにしています。次の居場所が見つかればいいと思っています。一緒にいるぬいぐるみは土偶の人形や動物の人形、特定のキャラクターの人形が多いです。私はぬいぐるみの多くはベッドルームのものが置ける場所に一列にしておいています。寝る前にそこに眼鏡を置いたりしているのでもいいようによっては寝ている間の眼鏡を守ってもらっています。外に出している子はホコリをかぶるので定期的に掃除して、中にしまっている子たちは定期的に出して外の空気を吸わせています。
大学A 2023	29	自分が思い出の最もある人形は家にあるクマのプーさんの30センチくらいの人形です。この人形の思い出は去年付き合ってた彼女とデイズニークンに行った時に二人で買ったもので、なんとなくで自分の家にもあります。別れ後も人形は可愛いとしても楽しい思い出を思い出させてくれるのでまだ飾ってます。未練があるとか引きずってる訳ではないです。物には罪はないし関係が悪くなっても別れたわけではなく良い思い出だし捨てるのは可哀想でありイオンデパリアとしてかわいいので置いています。
大学A 2023	30	私は小さい頃、リカちゃん人形やマルちゃん人形が大好きだった。リカちゃん人形は一人だけでなく、たくさん買ったものも、ドールハウスも買ったものもあって、会話させたりしていた。髪型をアレンジしたり、一緒にお風呂に入ったりと、お友達のような接し方をして大切に扱っていた。また、お出かけをするときも一緒にもっていった記憶がある。ぬいぐるみについては、自分ではないがデイズニーなどのキャラクターなどのキャラクターのものを部屋に飾っている人をよく見る。日本人形はよくホラー映画や心霊映像に出てくるので怖くて不気味なイメージがある。
大学A 2023	31	我が家では捨てるに捨てられないぬいぐるみは犬猫のおもちゃになります。

大学A 2023	32	<p>大事にしていたぬいぐるみはピンク色の象のぬいぐるみである。私がまだ赤子の時、母に動物園に連れられ、売店でそのぬいぐるみを離さなかったため、母がそのまま購入したそうだ。幼少期はその象を持ち歩き、自由帳に象のぬいぐるみの絵を描いていたこともあるそうだ。小学校に上がったからはそのぬいぐるみがかわいがることは無くなり、物置部屋にしまっていた。色褪せ古くなったぬいぐるみにもかかわらず、家族の誰も嫌に扱おうとはせず、ずっと部屋の一番目立つところに飾られていた。中学生にもなると、ぬいぐるみと遊んだ思い出が薄れてしまったが、数あるぬいぐるみやおもちゃの中でもその存在感はず出していた。私や両親はそのぬいぐるみを私と同一視していた節があり、だからこそ無下に扱わなかったのではないだろうかと考えよう。今は実家を出てしまったが、帰省するとそのぬいぐるみは変わらず部屋に佇んでいる。</p>
大学A 2023	33	<p>私は、幼い頃に祖父母に買ったろうさぎのぬいぐるみを長年捨てられずにいたが、昨年断捨離をしていた際に決心して捨てることにした。私は、そのぬいぐるみ自体に魂が宿っているという感覚はなく、買ってくれた祖母に対する感謝の思いがあり、その祖父は3年前に亡くなったため、祖父との思い出をなくしてしまうような気がして捨てられずにいた。最終的には、スマホで写真を撮り、感謝の言葉をかけてゴミに出したが、心のどこかで申し訳ない気持ちにはあった。母に、家で大切にしている人形があるかと尋ねると、「信じては無いけど、なんか呪いかあると怖いから家には置かないように」と言われた。</p>
大学A 2023	34	<p>私の家には、以前父がユーフォーキャッチャーで取ったクレヨンしんちゃんに出てくるジロという犬のぬいぐるみがあるのですが、触り心地が良く抱き枕にして寝るとよく眠れるので、眠れない時によく一緒に寝ています。</p>
大学A 2023	35	<p>小さい頃よく持ち歩いていたものに毛糸でできた、ミイラみたいな小さな人形のストラップを持っていて、それがなくなったり、又ストラップが切れたら「自分の代わりになってくれたんだね」と親が言っていた。私はもの心着いた時から大好きで今でも大切にしているホワイイガーのぬいぐるみがあります。本当は、姉のぬいぐるみだっただけなのですが私が奪ったらしく、もの心着いた時には自分のぬいぐるみだと思っていて、出かける時も一緒に連れて行ったり、夜一緒に寝たりもしていました。外にも持ち歩いていたので遊び相手が見つかったのです。そのホワイイガーと遊んでいました。姉の代わりにして遊び相手になってもらっていた。小さい頃から持っているもので、毛がボサボサしたり、耳の原型が崩れたりしている部分もあり、ホワイイガーかかわらなくなっています。ですが今も自分の部屋に綺麗にして、飾っています。</p>
大学A 2023	36	<p>私は、小学生の頃に母親から誕生日プレゼントとして貰ったオラウータンのぬいぐるみを今でも大切にしている。幼少期に遊んでいたぬいぐるみのほとんどが押し入れの中にしまわれているが、貰ったぬいぐるみだけは自分の見えるところに飾っている。大きさを抱えるのに苦ではない程度で、貰った当時は手足が人間に近いため床ができたような感覚です。と抱きかかえていた記憶がある。今、捨てたいと思っているわけではないが、いずれ捨てて考えたときにぬいぐるみに対しての愛着や申し訳なさや同時に、母親に対しての申し訳なさも感情として出てきます。</p>

大学A 2023	37	私の家には動物のぬいぐるみが10個ほどある。特に大切に小さい頃は牝の横に置いていたぬいぐるみが、犬と白くまのぬいぐるみの2つである。なぜ大切にしていたかという点、犬のぬいぐるみは小学校の家の祖母が飼っていた犬に似たぬいぐるみ。白くまのぬいぐるみは近くの動物園で大好きだった白クマのぬいぐるみ。何度も通いその白くまと家でも会いたいと思っていたぬいぐるみである。どちらも小学生の頃に死んでしまったがずっと大切に残している。いまは実家の自分の部屋に飾られている。
大学A 2023	38	自分の話ではないが自分の妹は犬のぬいぐるみを大切にしているいつも帰ったらすぐ目に入る位置に置いてあるということを言っていた。
大学A 2023	39	私の部屋には熊のぬいぐるみがあります。優しい表情ともちの触り心地が気に入っています。とても癒される存在です。このぬいぐるみは、中学生の時におじいちゃん、おばあちゃんに買ってもらったものです。ホームセンターに買い物に行ったときに見つけて、一目惚れしました。私は3人兄弟なのですが、それぞれ気に入った色違いのぬいぐるみを買ってもらいました。大好きなおじいちゃん、おばあちゃんから買ってもらったこと、そして兄弟でお揃いということで大切にしています。
大学A 2023	40	私含め兄弟が男子しかいないため人形というものとはありませんでした。自分一人では子供のころに買った小さいぬいぐるみを綺麗に何年も飾っていたりはしています。
大学A 2023	41	私が大切にしているぬいぐるみは、高校2年生の時に友達から誕生日プレゼントで貰ったゾーさんのぬいぐるみである。まだ、家に置いてから3年程しか経っていませんが私にとって1番大事にしているぬいぐるみになっている。私は、キヤラクターの中で1番ゾーさんが好きである。このゾーさんのぬいぐるみは友達がデイズニランドに行つて貰ってくれたもので私はずっと小さな頃から欲しいと思っていたが高校生の私には値段が高くて買おうことができなかったものである。このゾーさんは家のベットの置いていて毎日一緒に横になって寝ている。私の中で寂しい時や悲しい時があるとゾーさんのぬいぐるみはとても大きいので抱んでくれるものになっている。どんな時でも一緒にいてくれる1つでとても私は大切にしているぬいぐるみである。
大学A 2023	42	私も幼いころに大切にしていた人形がいて、今はほとんど使っていないのですが、他の物のように捨てることができず、ずっと押し入れにいらしています。
大学A 2023	43	好きなアイドルのぬいぐるみやアクリルスタンドを大切にしている。また、私は幼い頃に曾祖母が作ってくれた人形を大切にしている。曾祖母は私の妹にも私の人形よりも少し小さな人形を作ってくれたので、姉妹の人形としてとても愛着がある。幼い頃の記憶なので、具体的なエピソードは思い出せないが、現在曾祖母は亡くなったので、曾祖母の人形として大切に飾っている。

「人形」との交流

大学A 2023	44	私が大切にしている人形は4歳の頃ケラムで買ったうさぎの人形です。初めての海外でどうしても可愛くて買ってもらった人形で幼い頃はどこに行くにも一緒に持っていた人形です。今も家にありますが、ベッドに置いてあります。汚くなってるから捨てたい気持ちがありますが、私の思い出が詰まった人形で、それこそ魂が宿ってる気がしてなかなか捨てることができず今も保管しております。
大学A 2023	45	私は、幼い頃からぬいぐるみが好きなので、自分の部屋に飾ってあったり、ベッドで一緒に寝たりします。気に入って買ったり、貰ったりするものは特に好きなので、自分のお気に入りのぬいぐるみを買って持っています。ベッドに置いてあるぬいぐるみは特に好きで、なかなか寝れない時に何となくそのぬいぐるみを抱いて寝ると直ぐに眠りにつくことができます。以前お付き合いしていた方から貰ったものですが、とても気に入ったことと、ぬいぐるみには罪はないと思います。今もとても大切にしています。
大学A 2023	46	実家には、ひな祭りに飾るひな人形を保管している。今は子供が家に居ないので飾っていないが、戸建てで倉庫が大きいので理由は無いが捨てずに保管している。もう一つ、私が小さいころに遊んでいた赤ちゃん人形も保管している。それは、いとこや親せきの子供が遊びに来た時の遊ぶ用として残している。
大学A 2023	47	なかなか物を捨てられない性格。高校では寮生活をしていたため大学に入ってから実家に戻った際にも減らすと決めて最近では捨てられるようになった。その時に昔のぬいぐるみはほとんど捨てたが一つだけ高校の寮にも持って行ったし現在も使っているぬいぐるみがある。そのぬいぐるみはずっと枕として使っていました。元々高い枕が好きで普通の枕だけでは高さが足りずそのぬいぐるみを挟んで寝るようにしてからずっとそのようにして使っています。ただただたまたま使っていたぬいぐるみを使っただけだがきつい高校三年間ずっと使っていたので思い入れは多少あるかなと思います。
大学A 2023	48	私は大切にしているぬいぐるみは1歳の誕生日に祖母に買った黄色のクマのぬいぐるみです。初めて祖母がプレゼントしてくれたぬいぐるみだったこともあり、今でもずっと大切にしています。買った時からずっと名前を付けて、旅行やお出かけの際にはいつも持ち歩いています。また小さいころは毎日一緒に寝ており、中学生の時ギリギリに留学に行った際も連れて行ってホームシックを乗り切りました。今でも定期的にクリエーションなどのお手入れをしたり、ぬいぐるみの洋服を手作りしています。かなり古いぬいぐるみなので、これ以上状態が悪くならないように今は棚に飾っています。ぬいぐるみが好きでいるいるなキセラクターを100体以上所持していますが、一番思い入れのあるぬいぐるみです。たくさんぬいぐるみを持っているのはできなかったため、その際に家族が人形供養を進めてくれました。目に見える効果はないと思いますが、これからのぬいぐるみや人形とお別れをする際には人形供養を利用してあげたいと考えています。

大学A 2023	49	昔母親に「魂が宿るから、人の形をしている人形やドールを、ぬいぐるみは買うな」と言われてきたことを今回の授業で思い出しました。家からぬいぐるみや人形が出てきた際は、ただ単に捨てた訳ではなく、きちんと供養してもらっていました。今は1人暮らしをしており、ぬいぐるみやドールはインテリヤとして置いています。
大学A 2023	50	母方の家系が日本舞踊に関係しているため、祖父祖母の家に日本人形が多くある。帛省で泊まりに行くとき寝室に必ず何体かあり自分は正直不気味に感じ恐怖でなかなか寝付けないのだが、大事にされているためなかなか怖いとは言えない。ただ、日本の素敵な文化と伝統が詰まっていることは確かだし、自分も家で寝るときに抱き枕にしている巨大なクマのぬいぐるみを大切にされていて、気持ちには十分におかるとも思っている。
大学A 2023	51	私が大事にしているぬいぐるみは母が作ってくれた小さくてお手玉のように丸い大きさのぬいぐるみです。このぬいぐるみは私が生まれた時に母が作ってくれたぬいぐるみで、寝るときにいつも枕元に置いてくれています。母が一生懸命私のために作ってくれたと思うと嬉しくても自分の枕元に置いてくれています。
大学A 2023	52	私が家で大切にしている人形は、小さいころからずっと持っている犬の人形である。その人形は私が幼稚園生くらい頃に兄がくれた誕生日プレゼントであった。ドールをいれると歩いたり、鳴いたりする人形であった。当時小学生くらいだった兄がくれたプレゼントであり、ずっと大切にしていたため年が経つにつれて捨てられないものになってしまった。私は小さいころ人形が好きで子供だったため、この人形以外にも持っているのがなかなか捨てられず今では飾っている。家族で神社で供養する話も出たが、今は海外に寄付する考えに至っている。
大学A 2023	53	お家で大切にしているぬいぐるみは小学校3年生の時に買ったドール。そのぬいぐるみは思い出が多いため特にお気に入りです。大切にしている。家族でドール展に行つた際に親が私に買ってくれたのも思い出のひとつだ。旅行の思い出と共に今でもベッドの上で他のぬいぐるみと一緒に大切に飾っている。
大学A 2023	54	自分が幼い頃から持っている、いつなせ買ってもらったのは覚えてないが羊のぬいぐるみがある。昔は、買い物へ行くにもご飯を食べに行くにも、外に出る時は必ず持ち運んでいた。名前を「マイちゃん」と名付けていた。私は一人っ子なので兄弟がいなくて、よくぬいぐるみで遊んでいた経験が多かった。その点としても大きく、本当に生きている人に対してするように話しかけていた。関わり続けることで愛着が生まれ、当時は私にとってもマイちゃんは大切な存在であった。実際に生きている訳では無いけれど、生き物とおなじ扱し方をすることにより孤独感や寂しさが無くなったような感じがした。

「人形」との交流

大学A 2023	55	思い出したのが、祖父の家にあった人形である。私の思い入れのある人形ではないが、母が人一倍大事にしていたものである。その人形は私が生まれる前から祖父の家にあり、いつも母と一緒にだった。最初は何も思っていないが中学生の頃から部屋で二人になると何とも言えない緊張感の重さを感じていたのを覚えている。また、前髪が目には掛かるくらい少づつ伸びている記憶があり、不気味だと感じていた。怖がる私のために祖母が前髪を切っていたのも鮮明に覚えている。そのため、供養を母に提案したこともある。しかし、母は思い入れのある人形であるため乗り気ではなかった。最後には人形供養をお寺ですることができた。
大学A 2023	56	私は、韓国アイトルグループのラスコットキヤラクターのぬいぐるみをもっている。しかし、ぬいぐるみが大好きがゆえに汚れてしまうのが嫌で透明の袋から出さないまま、いつでも見える場所に保管している。このぬいぐるみが存在することにより、実際にアイトルは姿として存在しているわけではないがあたかもそこにいるかのよう感じる。最近では、自分の推しているアイトルのぬいぐるみやキヤラクターを家に飾るだけでなく、自分が旅行に行ったりするときにも一緒にそのぬいぐるみを連れていくというのが流行っている。
大学A 2023	57	小さい頃から使っている抱き枕のワニのぬいぐるみがある。それは、親から初めて買ってもらった人形で他の人形よりも愛着がある。どんなに汚くなっても捨てるという選択は全く手洗いをし汚れを落としている。
大学A 2023	58	家にはあまり人形やぬいぐるみはないのですが、小さい頃に好きだった人形を捨てられずにしまっており、おもちゃや食べさせると「にんじんおいしいなあ」などと喋ります。篠のような人形で口が開くようになっていて、おもちゃの野菜を食べる形のおもちや4歳下の弟に引き継がれましたが、途中で喋らなくなりました。しかし、2人にとってお気に入りの人形で思い入れがあったため、思い出ボツクスに収納されて物置に保管されています。
大学A 2023	59	私は兄弟が多いため小さいころから人形がたくさんあったが、大きくなるにつれて必要なくなるため多くは処分する際にお寺で供養してから処分したと母が言っていた。今でもデイズニーで小さい頃に買った人形や抱き枕などは寝るときにそばに置いて安心するため大切にしている。
大学A 2023	60	我が家にも人形は数多く置かれたりするため、人形供養という行為が他人事とは思えなかった。人形を置いているのは私の部屋だけでなく、妹たちの部屋やリビングにもソフテリアとして置かれている。ちなみに私の部屋だけで6体いる。普段、人形に対して特段何かをするわけには無いが、私は人形にも心があると信じている。また、前髪が落ちたため、髷として落としたときには「ごめんね」と謝ったり、家を出る時には「いってきます」と言う程度には話しかけている。漫画やアニメ等で見ると色々な決まった人形相手に話す等々ではなくとも、それなりに人間よりもどこにはしている。私の妹においては、毎日決まった人形と共に布団で寝ている。その扱い、様はまさに人間そのもので、寒い季節になると彼女のいらなくなくなった服を着せたりするほどである。確か「びーちゃん」とかいう名前も付けていたように思う。

大学A 2023	61	私は人形に対しての第一印象は怖いが出てきます。特に日本人形はとても不気味に感じます。私のおばあちゃんの家には日本人形があります。赤色の着物を着て顔は白い一般的な日本人形です。いつからあるかなどは分かりませんが、私が小さい時からクーニスに入られて保管されていました。小さいながらにその人形に不気味さを感じていました。自分の家には日本人形はないですが、ぬいぐるみはあります。子犬と大型犬のぬいぐるみです。それも小さい時からあり、今でも棚にクーニスはつけてないですが保管しています。
大学A 2023	62	私は小さいころ親に買ってもらった人形をずっと捨てられずに家に置いています。星座ごとに色の違う人形が売ってあって、自分と同じ星座の人形を買ったので親近感が他の人形よりも強いです。昔は一緒に寝たりの、名前をつけて人形遊びをしていました。今はそういういったことはしませんが、きちんと定位置において部屋全体が見渡せるようにいつも座らせてあります。
大学A 2023	63	私は一人暮らしを始める時に、IKEAでサメのぬいぐるみを買った。私はぬいぐるみが好きで、水族館や、動物園に行ったら必ず買ってしてしまうほどだ。IKEAのサメは一人暮らしで寂しかったので購入した。抱き枕としても使い、気持ち悪いが、時には話しかけたりもした。名前をつけたら余計、愛着が湧いた。ちなみに名前は「フカヒレ」だ。今は1年以上経ってしまったため、ボロボロになっっているが、捨てることはないだろう。今後も大切に使いたいと考えている。捨てるのはかわいそうだし、悲しそうに見える。
大学A 2023	64	人形に愛着や愛情を持つことは自身においてリラクサスでできる存在になるためとても大切であると感じた。私はウサギの抱き枕を大切にしていた。小さい時に母が私を寝かしつけるときにクッション代わりにして使用していた。そのため、母の香りがついていて安心できた。一人で寝るようになってからも人形の手を握りながら寝ていた。母を擬人化させたものとして使用していたのだ。名前は自分が買ったものではなかったため、ウサギと呼んでいた。
大学A 2023	65	家にあるアニメのキャラクターのぬいぐるみが透明なビニール袋に入ったのは新品の状態でありビンクに置いてある。買った当初は、袋から出そうと考えていたのだが、そのキャラクターのぬいぐるみか変形してしまうことを恐れて出すことができていません。
大学A 2023	66	私は幼い頃から大切にしているぬいぐるみがあります。どちらもクマのぬいぐるみで、ビンクの大きなクマとベージュのような黄色の必ず持つて行っていました。大きい方は小学一年生の誕生日に買ってもらい、毎日小さいクマと一緒に寝ていました。二つとも買ってからは常に一緒に行動していました。現在も自分の部屋に飾ってあります。
大学A 2023	67	私自身が持っているものとしては、サンリオのクロミのぬいぐるみを大切にしており、好きな韓国アイドルとお揃いのものので、常に枕元に置いている。

「人形」との交流

大学 A 2023	68	私は小学生の頃に大好きだったライメロデイのぬいぐるみを、いまだにずっと手放せずにいます。それは父が当時 UFO キヤッチャーで扱ってくれたもので、小さい頃は一緒に寝たり遊んだりしていました。とても可愛がったぬいぐるみに愛着が湧いてしまい、今も手放せずにいます。
大学 A 2023	69	僕は小さい頃におばあちゃんにもらったチツアとテールのお風呂で遊べるぬいぐるみみたいなのを昔大事に使っていました。確か中学生くらいまではお風呂場にあったかかかびでできて普通に捨てた気がします。別にチツアとテールが特別好きだったわけではないですが何故か大事にしていた気がします。
大学 A 2023	70	家で大切にしているぬいぐるみは、クジラのぬいぐるみだ。エピソードとしては、寝るときに抱き枕として使っている。寝るときは、ほぼ毎日抱いて寝ていると思う。このぬいぐるみは、中学2年生の時に母親に買ってもらった。今ではとても気に入っている。
大学 A 2023	71	人形はおままことをする際に使うのが私の中で普通だったので、一緒に寝たり長く大事に持っていたのはあまりしていなかったかなと思った。
大学 A 2023	72	私の家にはかまぼこのキヤラクターのぬいぐるみがある。小学生くらいの時に箱根のかまぼこに関する施設で購入したもので、ずっとベッドに置いてあり、寝るときに触っている。
大学 A 2023	73	私の場合、小さい頃に保有していた人形・ぬいぐるみを小学5、6年生の時には、それら人形・ぬいぐるみを扱うことがなくなり、何も抵抗感なく捨てることが出来た。おままごとのように、人形にキヤラクター性を持たせるのではなく、ただの抱き枕として使用していた。
大学 A 2023	74	知いころから使っている人形というかぬいぐるみがありましてアタのかわいらしいぬいぐるみで枕元にはずつと置いて生活していました。一緒に生活している時間が長いから時々アタのぬいぐるみから相續を感じるようになってきた。
大学 A 2023	75	出産祝いで頂いたジュタイアのぬいぐるみです。新生児が生まれると、一人一人に祖父母がジュタイアのぬいぐるみを贈る。ジュタイアと言う名前は世界的に知られていますが、祖父母のジュタイアをつくったマルガリテ・ジュタイアのよう自立した、改革者になって欲しいという想いが込められています。彼女は満足と右手が生まれながらに不自由であったのにもかわからず、洋裁の世界で才能を発揮していた背景があるからである。必ず、一人一人にはフランスの要素があり、それを用いてジュタイアのぬいぐるみのように固く見ると不思議と幸せな気分になるからである。
大学 A 2023	76	私の家では、クマのぬいぐるみがずっと飾って置いてあります。このぬいぐるみは、長男(兄)が生まれたときに両親に祖母が祝い品として送ったものだと聞いています。私が生まれる前に何度か引っ越しをしていましたが、その当時から現在まで捨てずに残っているものはいくつかの家具とこのぬいぐるみだけだそうです。

大学A 2023	77	<p>ぬいぐるみ 種類：動物（アザラシ・豚・アライグマなど） 理由：人型よりも愛着が湧き、そもそも動物が好きだから 小学生ぐらいの頃から一緒に寝たり、遊んだりしていた。かといって汚すこともなく、綺麗に取り扱っていた。幼少ながらに、生き物を取り扱うような感じで過ごしていた。今ではもう遊ばなくなりましたが、部屋の中を見渡せるような位置に置いてある。時々、埃などを払ったりもしている。</p>
大学A 2023	78	<p>私の家には、私が生まれた時と同じ重さの熊のぬいぐるみがあります。日本発祥の文化ではないと感じるが、祖母がくれたもので今でも大切に飾ってあります。ぬいぐるみも、動画で結婚式の際に子から親に自分の出生体重と同じぬいぐるみを渡している様子を見たことがあるので似ていると感じました。</p>
大学A 2023	79	<p>私が大切にしているぬいぐるみは二つある。一つ目は、会社の役員であることから海外に多々出張に行くことがある父がアメリカから買ってきてくれたクマのぬいぐるみである。この加えて忙しい父が時間を削いで当時幼稚園の私に買ってきてくれたことがとても嬉しかったというエピソードがある。二つ目は、ドイツのシュタイフ社のクマのぬいぐるみである。このシュタイフのぬいぐるみも父がドイツに出張に行った際に買ってきてくれたものだ。当時私はおそらく中学生だったかわからず父が私を思って時間を削いで買ってきてくれたことが嬉しかったというエピソードがある。この二つ以外にも小学2年生の時にホテルに2週間旅行に行った際に買ってもらったテディベアや中学1年生の時にイギリスに2週間の旅行に行った際に買ってもらったぬいぐるみなど様々なぬいぐるみがあるが、今回あげた二つのぬいぐるみは何があろうと捨てることは無い癖を抜いて大切な二つである。ぬいぐるみ遊びはしないため、ぬいぐるみを清潔に保ち日焼けしないように大切に飾っているが、極端に至極不安になった際には抱きしめることがあることに加えて見て何だか寒そうだなと思う際にはタオルをかけるなどして大切に扱っている。</p>
大学A 2023	80	<p>私は、デイズニーキャラクターのダッフィー＆フレンドズのぬいぐるみを大切にしている。私は、キャラクター全種7種類のぬいぐるみを持っている。もちろん一つひとつに思い入れはあるが、四つ目あたりから「揃えたい」という気持ちも強くなり新キャラクターが登場すると義務化されたように買い揃えている。また、たぐさぬいぐるみを持っているため、すべて平等に扱っているわけではなく決まった一体をとりわけ可愛がる。他のぬいぐるみは、ソファアームに座らせているだけだが、決まった一体だけは部屋から持ち出してリビングや和室で一緒にぐっすりして、家族の団樂の空間に溶け込んでいる。デイズニーフレンドズでぬいぐるみを購入することを「お迎えする」と言う。購入し家に連れて帰ると言う行為には、大切な家族として迎え入れるという愛情が根底にあることがこの言葉から分かる。私も多少の扱いの差があったとしても、同じような家族を「お迎えする」という気持ちですべて購入している。</p>

大学A 2023	81	私は小さい頃から人形が好きで、人形を使っておまごをしたり、人形に名前をつけて可愛がっていたりしたの で、人形をゴミとして捨てるのに抵抗がある。今でも、人形は部屋に沢山あって一緒に寝たりしているの で、人形を捨てることと抵抗感を覚えます。特に、キヤラクターをモチーフにした人形や動物などの人形は、捨て りしたら、恨まれたり悲しんだりしてしまうののではないかと思っています。逆に、家には雛人形もあり、 それは特に思い入れがないので捨てたとしても可哀そうとは思わないけど、呪われてしまいそう で怖くて捨てられ ないと思います。私が、特に大事にしているのは推しキヤラクターの人形です。その人形を抱えながら寝て います。
大学A 2023	82	今自分の家で大切にしている人形は、五段飾りの雛人形です。その人形は母の誕生日プレゼントとして、母の父 方の祖母が送ってくれたものです。母は元々大阪の堺に住んでおり曾祖母は兵庫の神戸に住んでいたのですが、曾祖母は （おそらく電車は使ったと思いますか）兵庫から堺までその雛人形を背負って持って行ったそうです。そんな理由も あって、今でも私の家では3月3日になるとその五段飾りの雛人形を飾っています。
大学A 2024	83	私がか家で大切にしているぬいぐるみは、ポケモンのポッチャマの人形で、兄からおさがりで、小学生低学年くらい の時にもらったものである。元々はぬいぐるみを振るとしゃべり出す仕様であったが、抱いて寝ている時に機械が 邪魔で、電池の交換など面倒になったことから、機械を抜いたただのぬいぐるみとして使用している。寝る時や さみしい時に抱いており、気を紛らわせるために使っていた。いつからか、親にも言えない事情や話し相手など として、ポッチャマに話しかけていた。直接言葉が返ってくるわけではないが、自分の中で都合のいい優しい言葉を かけてくれるとし、話していた。他にもぬいぐるみは増えているが、悩みを聞いてもらう時には必ずポッチャマに 話しかけている。逆に他のぬいぐるみには話しかけていない。また、個人的に付けた名前はなく、ポッチャマと呼 んでいる。
大学A 2024	84	昔から人形は捨てずにどんなに古くなっても取っておいていた。服や家具を捨てることはあっても、人形を捨てる ことにはなぜか抵抗が生まれてしまっていた。私が持っているぬいぐるみとして1つ挙げるとしたら、小さい犬の ぬいぐるみだ。この子は、父に小学生時代買ってもらったものだ。このぬいぐるみは、毛が抜け、今はもうぼろぼ ろであるが今でも大切に保管している。
大学A 2024	85	私が幼稚園児だった頃にとでも愛着を持っていたポケモンのぬいぐるみがある。それは町内のお祭りの景品であり、 くじ引きだったかは定かではないがなにか確率的に入手することができたものだった覚えがある。同い年の従兄弟 と当時参加し、私はそれを当てることのできなかつたが、従兄弟がそれを当て、譲り受けた。当時はお互い子供で あり中々欲しいものをくれるなんてことは珍しくそれも含めとても愛着があった。現在でも処分することはなく、枕 元に飾っている。

大学A 2024	86	家でウサギのぬいぐるみを買いこちから大切にしています。ひとめばれて買ってもらい、それ以降にもかわいらしいぬいぐるみは買ってもらっていましたが、何故かそのウサギのぬいぐるみが一番のお気に入りでした。いろんなお人形を集めよくおままごとに使っていました。その中でも一番いい待遇をそのウサギの人形にしたりしてほかの人形とは差があったので、他のとは何かが違うのだと思います。現在はおもちや箱の中に眠っている状態です。
大学A 2024	87	私の大切にしている人形は、家族お飾りを持っているクマのぬいぐるみです。誕生日が書かれており、誕生日によって色が違うため家族全員色違いです。私が生まれたときからあるようでそのぬいぐるみを使って妹とおままごとをしたり、手がラグネットになっているため冷蔵庫に付けて遊んでいました。今は一人暮らしですが実家から持ってきて飾ってあります。
大学A 2024	88	家で大切にしている人形はメルちゃんという人形です。私たちが赤ちゃんくらの時は多分持っている方が多かったと思います。お家にいるときもお出かけをする時もいつも一緒にいました。確かお風呂に入るときも一緒にだっただと思います。メルちゃんには赤ちゃんの人形なのですが、妹のように可愛がっていました。今もまだお家に飾っています。
大学A 2024	89	私が大切にしているのは、小学生の頃から愛用している「だつきー」という抱き枕型のぬいぐるみです。このぬいぐるみは、家族が誕生日に贈ってくれたもので、特に渡れた日や落ち込んだときに抱きしめることで安心感を得ています。普段はベッドに置き、清潔を保つため定期的に洗濯しています。旅行にも一緒に持っていくほど愛着があり、私にとつて心の支えとなる存在です。このように大切に扱うことで、自分の気持ちを安定させる効果があると感じています。
大学A 2024	90	私の大切なぬいぐるみはアニメキャラの小さな手に乗るサイズのもの。非公式の制作で裸のサイズだったので服を別で買って着せて、サイズの胸の飾り棚に置いています。絶対に汚したくないので触らず毎日愛でていて、あとは息を吹きかけてほこりを飛ばしています。いつか作品の聖地巡礼をする時に一緒に連れて行きたいです。
大学A 2024	91	いちばん大切にしていた人形は、リラックマの人形である。保育園の頃に買ってもらったもので、人形用のベビーカーに乗せて、ごっこ遊びをしていたり、専用のベッドがあったり、祖母の家に行く時も寝る時もずっと一緒にだ。前に部屋の整理をしていた時に、人形用のしまうケースから出てきて、ハグをしたり話しかけたりするの、昔からの愛着から来ている。また、サイズニーで買った人形たちは、人形用の椅子、ソファニーに並べて、部屋の家具の一部として飾っている。

「人形」との交流

大学 A 2024	92	私の家には、小さい頃に買ってもらった動く犬のおもちゃがあります。電池を入れるとしゃべり出すので遊ぶのが好きです。今はもう大学生なので遊んだりはしませんが、もし手放すことがあれば売ったり捨てたりは絶対にしきません。あと人形というよりはシュライヒというメーカーの動物のフィギュアが大好きです。特にニョウのフィギュアはどしゃぶりで遊ぶのが好きです。小さい頃によく買って買っても売って売って今でも同じフィギュアを買ったことがありません。だから私は売ることなんてできません。遊んでくれる誰かにあげたり、できれば保護したいです。思い入れのあるものなので。
大学 A 2024	93	家で大切にしているぬいぐるみは、今現在も一人暮らしのお家にも持ってきた「くまのぬいぐるみ」です。これは、1歳の頃に父が買ってくれたものです。小さい頃は身長が同じくらいなのにずっと手を繋いでいたり、本を読んだりしてました。今現在は一緒に寝ています。
大学 A 2024	94	私がか家で大切にしているぬいぐるみや人形は二つほどある。一つはポケモンのぬいぐるみだ。小学校低学年くらい頃、私はぬいぐるみや人形、フィギュア同士を戦わせることが好きだった。当時から特に好きだったポケモンのぬいぐるみやその名残で今もずっと部屋に飾ってある。もう一つはテリオシリーズのテレサのぬいぐるみだ。これはクレームゲームでとったものでベッドの横にいつも置いている。私はクレームゲームが絶望的に下手くそで、景品をとれたことはほとんどなかった。その中で唯一取れた大きな景品がテレサでとても嬉しかった思い出がある。そのような理由からテレサのぬいぐるみには思い入れがある。
大学 A 2024	95	私が大切にしている人形はブライヌ人形の白髪の女の子だ。その人形は当時購入した小学生の私にはとても高価で、自分のなかで理想的な人形だったのでも着せ替える以外は鑑賞用にしていた。それは、今も実家で大切に保管している。
大学 A 2024	96	アニメに出てくるキャラクターの人形を持っており、柱元においてねときの抱き枕のような感覚で使用しているが友達とクレームゲームで一緒にとったという付加価値があるため雑になりつつあるが汚れたりはいらないように扱っている。
大学 A 2024	97	自分がかあちゃんの時と一緒にいる豚のぬいぐるみはぶーさんという名前前で、匂い頃はしゃべったり、耳を持ったり、尻尾を持ったりして連れまわしていたので、だんだんとピンク色が少し色あせてしまったり、中の綿やビーズなどがどこどこへこぼれてしまったが、ぬいぐるみ用の洗剤で洗ったり形を整えたりして手入れしている。小さな頃は自分の手では持てなかったが、現在では手のひらに乗るようになり、ぬいぐるみと共に自分の成長などを感ずることもあった。匂い頃から一緒に写っており今までの思い出や愛着などもあって、自分にとって家族のようなぬいぐるみであり、特別ですと手放したくない大切な存在だと思ふ。

大学 A 2024	98	中学生の時母親に貰ったシロクワの抱き枕を大事にしている、貰って以来ずっと一緒に寝ている。シロクワに対して認識は様々で、単にぬいぐるみの抱き枕として扱っているときと、架空の家族や親友のように感じている時がある。名前を呼んだり話しかけたりはしないが、かといって顔もついでにだっただの癖の魂という感じもしないので、できる限り丁寧に扱うようにしている。特に冬場はベッドから立ち去る時に丸出しのまま置いておくや寒そうなので布団をかけておく。寝ている間に頭を触ったりすると何か申し訳ないなと思うので必ず顔側に頭が来るような向きにする。人格や魂を認めてそうしているよりは、なんとなく忍びないのでそうしている。(目を閉じているデザイなので、もし目を開けていたら認識が変わっていたかもしれない。)大切にしているぬいぐるみだけど、最終的に供養に出すかはわからない。ただ、捨てる時に生ゴミとは別の袋に入れたり、何かに包んだり、目の部分を隠したりはするかもしれない。
大学 A 2024	99	私はおばあちゃんからもらったクワのぬいぐるみを大切にしています。このぬいぐるみは、私が小学生のときに、おばあちゃんが旅行先で買ってくれたもので、今でも「くまだん」と呼んでいます。小さいころ、一人で寝るのが怖かった私のために「この子が守ってくれるよ」と言ってくれてくれたのをよく覚えてます。特に印象深いのは、学校の修学旅行に持って行ったときです。今ではベッドのそばにいつも置いていて、毎日目にするたびにおばあちゃんの優しさを思い出します。時間が経って毛が少し薄れてきましたが、それも大切な思い出の証だと感じ、これからも大事にしていきたいと思っています。
大学 A 2024	100	私が小さい頃から大切にしていた人形は引越しのタイミンクでもう全員をつれていくことができないと判断し一番長く一緒にいる人形以外は中学生の頃に捨ててしまった。本当は人形供養に出したかったが、当時は台湾に在住していたため日本式の神社仏閣に連れていくことが難しく、お清めの塩をかけ、他のゴミとは分けて処分をした。処分しなかった人形は、今は実家のリビングの椅子に座らせている。小さい頃はおまごごとをしていた。
大学 A 2024	101	私が、大切にしているぬいぐるみは、クワの小さいぬいぐるみで、部活の友達が中学校を卒業するときに自分のゼッケンナンバー付きのユニフォームをかぶせてラッシュしてくれたものです。もらった時は、かばんなどに付けて離さず持つて居ようと思っていたけど、傷つけてしまおうかと思ったので、今は持ち歩くことはなくテーブルの上に座らせていつでも見れるようにしています。見える場所に置いてあるだけではなくて、倒れていたら座らせなおして顔が見える状態にするし、ぶつかったらとごめんと言いつつさにごめんと言いつつさになることもあります。
大学 A 2024	102	母が「ろたん」というキャラクターが好きで、幼少期の頃から抱き枕サイズのぬいぐるみと一緒に寝てきたので、今でも寝るときには「いて当たり前」のような存在になってる。特に名前などつけてはいないが、常に枕元にいないと落ち着かないような存在で、かなり愛着を持っている。
大学 B 2022	103	小学生の時に学童からの帰り道で、引越しすると思われる知らない人から大きなルカのぬいぐるみをもたらされた。遊んでいる途中で尾ひれがとぎれた時も縫って直し、まだ家にある。(ぼぼちゃんという知育人形で小さい頃は遊んでいた。遊ばなくなっただけでなく、放置していることに怒っているかと思うとたまに怖くなるので、夜には視界に入れないようにしている。

大学B 2022	104	わたしは幼稚園の時のクリスマスに両親からぬいぐるみをプレゼントしてもらい、それをとても気に入って中学生まで毎日一緒に寝たり旅行先に連れて行ったりしていた。
大学B 2022	105	幼い頃、人形を集めて遊ぶのが好きだったのが、その人形達は今は家に置いてある。未だに捨てない理由は、捨てるのが「可哀想」というより「怖い」から。結構前にテレビで観た怖い話で「何度捨てても家に帰ってくる呪いの人形が、持ち主に恨みを持って復讐する」という話を聞いて以来、人形に対して恐怖を感じるようになり、今も放置してしまっている。
大学B 2022	106	小学生のとき複数人で友人の家に泊まりに行ったが、4人中3人（私含め）が寝袋の供にするためにぬいぐるみを持ってきていたという思い出がある。当時は慣れ親しんだぬいぐるみに安心感を覚える人は多いのだなと驚いた。
大学B 2022	107	私はぬいぐるみが大好きで、家にもたくさんさんのぬいぐるみがあります。その中でも思い入れが強いぬいぐるみは三匹です。一匹目は、大きな白い熊のぬいぐるみ。一歳ぐらいの時に大火傷を負い、入院していた時、私が寂しくないうようにと親戚のおばあちゃんが連れてきてくれた子です。それからずっと一緒に過ごしてきた、今でも一緒に寝ています。不思議とその子は家族全員目が合うように感じられて、きつと魂が宿っているのだと思います。二匹目は、亡くなった祖母が母に送った黒猫のぬいぐるみで、生まれた時からずっと傍にいてくれました。途中で片方の瞳が取れてしまったり、だいが長く遊んでくれているので、よほどはばになっっている所もありますが、その度に直したりして、今でも大切にしています。私の祖父は昔黒猫を飼っていて、私も幼い頃遊んでもらいました。その子とそっくりなぬいぐるみだから、より愛着もわきました。三匹目は、幼稚園くらいの頃に旅行先で父に買ってもらったヤマネコのぬいぐるみです。一日見て大好きになり、私の所に連れてくるからずっとお気に入りです。旅行の際や泊まりの際はいつも可愛くて、大好きな事に変わりました。段々と草取られて、所々毛が抜けてしまっています。それでもとても可愛くて、大好きな事に変わりました。初めに毛が抜けている事に気がついた時は、私のせいであろうなと思ってしまったり、と思う泣いてしまう程悲しみ、謝りました。今でこそ一緒に遊ぶ事は少なくなりましたが、ベッドに置いて、毎日一緒に眠っています。
大学B 2022	108	昔から人形に対する恐怖感のようなものがあり特に人形が家にいたことはありませんでした。
大学B 2022	109	日本人形が幼い頃からのすごく苦手な、日本人形が数十体ある友達の家で大泣きしてしまっただけのことがある。今でも苦手ではあるのだが、日本人形の風貌が少し怖く感じるだけでなく、幼い頃何となく感じていたのは「見られている」という感覚だった。小さい頃に親に買った人形を、大きくなってから捨てることになった時、ゴミ箱に入ってたを見てなぜかダメな気がする、バチが当たるような気がすると思ってしまう記憶があった。今思えば怖い物として大事にしていた自分の感情だったりを人形に投影していて、手放すとその人形について思い出すのも無くなるような感じがしたんじゃないかと思う。

大学B 2022	110	私個人としては、ミックキーワズやキテイチヤンなどのキャラクターのぬいぐるみは、ゴミに出せる。しかし、フランス人形や、日本人形などの人の形をした人形は、捨てることが出来なかった。家で大事にされていたかはわからないが、祖父に家にあった日本人形の髪が伸びると祖母に言われたことがあった。そのことを聞いたのは、知り頃だったため、その人形の前を通るときは息を止めて歩くなど恐ろしい存在だった。祖母を家を壊すときにその人形も神社に引き取ってもらった。
大学B 2022	111	私はぐでたまというキャラクターが好きで、ぬいぐるみをいくつも持っているのだが、みんな「ぐでたま」なのにそれぞれ私や母が考えた名前があったりする。子どもではないのでそれで遊ぶといつたことはないが、ただ部屋に置くよりも愛着は間違いなく増している。
大学B 2022	112	幼稚園生の頃に自室にはたくさんぬいぐるみがありました。特に黄緑色のぬいぐるみは私のお気に入りのぬいぐるみでした。買ってもらった時の事は覚えていませんが、母に聞いたところ、店頭に並んでいるぬいぐるみの1つを手にとって「これは、パッピー！」と突撃名前を付けて離さなかったそうです。当時友人達と一緒に家で遊ぶ時は大抵色々なぬいぐるみを使って家族ごっこをしていましたが、そのぬいぐるみはいつも誰かの子供という設定で、最初に誰かの服の下にしぼらく入れながら数十分遊び、ある程度時間が経ったらそのぬいぐるみか匿まれたということになり、誰かが自分の役職とそのぬいぐるみの声を担当していました。自分は幼稚園生の中で一番背が低かったので基本的に自分も誰かの子供役で、そのぬいぐるみは自分の弟（目によっては妹だった事も）にあたる存在でしたが、実際には私に弟がいなかったので、家族ごっこをしていている時だけは少し大人になれたような気分を味わっていたのを今でも覚えていきます。
大学B 2022	113	物心つく前の幼いころからある肌触りの素材で出来ている人形を触らないと寝れないようになってしまっていて、その素材で出来ている人形をずっと大事にしています。上京してきましたがその際にその家に持ってくるほど大事にしています。
大学B 2022	114	私は人形を処分できず、赤ちゃんやの頃から持っている人形も家にたくさんある。小さい頃気に入っていた人形はそれぞれ名前をつけていて、ミックキーやプーさんなど元々キャラクターの名前があるものもそれを見無視して全く違う名前をつけていた。また、小さい頃は布団をひいて寝ていたのだが、そのときに気に入っている人形を布団の端っこに毎日ぎっしり並べていた。寝るときに並べて起きたら箱にしようというのがルーティンになっていたのを思い出した。
大学B 2022	115	置き場困って、供養か密付しようと考えていたぬいぐるみ達の存在を思い出し、何とかしなきゃな、という気持ちになりました。何とかします。生粋の犬派で、家にそこそこの数、犬のぬいぐるみがいっぱい。名前は、ゼロ歳のときに貰った初代がゼロ、愛犬（ロック）と同じ犬種のキヤバリアがナックとヤック、数年前にIKEAで購入したシベリアンハスキーがイチ、先週購入した秋田犬がアキです。

大学B 2022	116	恥ずかしながら子供の時のぬいぐるみや人形はなぜか捨てられずに部屋の片隅に置いてある。
大学B 2022	117	私は幼い頃、人形遊びをあまりしていなかったのでも特に大事にしていた人形はありませんが、現在私の好きなキャラクターであるリラックサのぬいぐるみとサメのぬいぐるみを私と共に母も大事にしています。
大学B 2022	118	自分が小学生の頃に大切にしていたリカちゃん人形を大きくなくて引越しの整理で捨てるときに、もちろん愛着があつて捨てるのが惜しいというのもありましたが、人形にも気持ちがあることをなんとなく頭で思っていたから捨てられなかった。また、私は祖母の家に住んでいるので日本人形が何体ありますが、それらは私の曾祖母の手作りだと聞きました。昔は日本がゆが、目がずつとあつていて、動くんじゃないかと思つてその部屋の扉には入りたがりませんでした。今でもその人形は祖母が大切に保管しています。この授業の後久しぶりに見たのですが日本人形が繊敏で、曾祖母の器用さに驚かされました。
大学B 2022	119	ぬいぐるみや人形は愛着があるため捨てることができないと感じる。小さい頃からいるぬいぐるみもいまだに捨てることはできていない。また、ぬいぐるみや人形を買うときには、慎重に買い物をする。
大学B 2022	120	雛人形は親が私のために選んでくれたもので、3月になると、押し入れから毎年必ず出して掃除して飾つて、とても大切にしている人形の一つである。他には、友達からもらつたぬいぐるみや祖母が作ってくれた陶芸の人形など、人からもらつた人形やぬいぐるみは自分で買ったものよりもさらに手放すことが難しいと考える。小さい頃、人形遊びやおままごとが好きだったので、はげぼちやんやリカちゃんなどの人形や、たまごっちやお茶太などのキャラクターを持っていた。親戚にあげたものもあれば、いまだに家で大切に保管して閉まっているものもある。
大学B 2022	121	中学校の友達の話になります。小さい頃に旅行先で買ったらしいオコジョの手のひらサイズのぬいぐるみを大事に持っています。表面の毛が飛んでつるつるになっていました。私にはそこまで大事にしているぬいぐるみがないので、少し羨ましく感じました。
大学B 2022	122	今イルカのぬいぐるみをもっており、ときどき話しかけたり、何か悲しいことがあると抱いたりしています。
大学B 2022	123	家で大切にしていた人形は指先から肘まである熊の人形です。小学生の時可愛がつっていました。その人形にクマのくみと名付けて、話しかけていました。くみは、ほこりを食べて生きているという設定で、でも実際に生きているとは思ってなくて、動いたらいいのなとは思っていました。
大学B 2022	124	私は6歳の誕生日にもらつた「メルちゃん」というお湯につけると髪の色が変化するという仕組みを持った人形をずっと大切にしてきました。一緒にお風呂に入つたり、髪をとかして着飾らしてあげたりととても愛着がありました。しかしだんだんとお湯につけても髪の色が変化しなくなつたり、髪質が悪くなつたりしたため捨てることになりました。とても思入れのあるモノだったのでとても悲しかったのを覚えています。

<p>大学B 2022</p>	<p>125</p>	<p>私はぬいぐるみを沢山もっている、その大半を手放すとき人形供養は行わなかったが、ゴミとして捨てることに抵抗があり海外のぬいぐるみを子供に送るといふボラセンターが体にはよく身に覚えがあった。また、私自身もっていたぬいぐるみ多くの家財と同様に捨てられないという考え方にはよく身に覚えがあった。また、私自身もっていたぬいぐるみすべてに名前を付けていて何度も呼んでいたし、ぬいぐるみで遊ばなくなっても名前は当たり前のように覚えていた。</p>
<p>大学B 2022</p>	<p>126</p>	<p>今でも自分の部屋に置いてあるぬいぐるみの話があるのでお話ししたいと思います。私が小學校低学年の頃、母と一緒にゲームセンターに行ったときにあるカメラルグリーングーンでカビバラのぬいぐるみを取ったのを見て、それがすごく羨ましくてずっとそのカメラルのことは見ていたら、女性の方がそのぬいぐるみを私にくれたということがありました。今思い返すと我ながらうすうすうしかったなと思うのですが、今でもそのカビバラのぬいぐるみは大事に取っています。</p>
<p>大学B 2022</p>	<p>127</p>	<p>私には物心ついた時から一緒にクマのぬいぐるみがいる。小さいとき、ぬいぐるみは人間が見えないときに動くと思っていた。私とずっと一緒にいては動けないのでご飯が食べられないだろうと思い、ぬいぐるみの近くに食べ物置いて自分は他の部屋に行く、ということをしたことがあった。ずっと一緒にいたので今でも見守られている感覚があり、たまに手を握ったりすると安心する。</p>
<p>大学B 2022</p>	<p>128</p>	<p>もともと、部屋には貰い物のぬいぐるみが7個ほどあり、小学生の時は可愛いと思って全て枕元に飾っていました。ですが、ぬいぐるみは沢山部屋に置く縁起が悪い、いい運気を吸い取ってしまうなど話も聞きました。ゾットにしまっていたのち、つい2ヶ月ほど前に2つのぬいぐるみを除いて全て処分しました。そして最近、残った2つのぬいぐるみの片方も、処分しようと思いましたが、話しています。ですが、はじめのぬいぐるみとしてもあり、さすがにゴミとして処分するのはできないということ、専門の回収センター？のようなところで処分していただくことを考えています。また、ぬいぐるみは家で保管されていますが、たかがぬいぐるみ、さほどぬいぐるみという感覚は、感違いでではなく、回収センターがあるように感じています。ただこの「自分の魂のように」という魂のよう」に感じてはなおおしくはならないかと思っています。</p>
<p>大学B 2022</p>	<p>129</p>	<p>今こそ、私はぬいぐるみが好きで何体もいますが、母曰く私の幼少期時代、人形遊びやおままごとには一切目もくれず、ビデオを見ていたそう。私は母にとて待望の女の子だったので、同年代の女の子のように育てたくてビョンクのものを持たせたり等したが、いつしか私はその母の思惑に嫌気がさし、しばらく目に見えない女の子らしさに反抗していたが、高校生の時とあるキャラクターに出会って、どんな人はまっているか、愛着=好きは少し違うのかもしれない、と考えた。しかし最近、古いシルノニアファミリーの人形が飾ってあるのを見て、いつ買ったかを母に尋ねたところ、私が生まれるよりずっと前に女の子が生まれることを願って買った、ということ聞いて、もし家を出ていくことがあったら持つていきたいと思えるほどその人形が愛おしくなった。</p>

大学B 2022	130	家で大事にしている、というほどでは無いかもしれませんが母が若い頃に遊んでいたリカちゃん人形を私のために残しておいてくれたのですが、私は何十年も昔の少し今とは異なる顔の人形がどこか怖くてその人形では遊んでいませんでした。ただ、捨てるのも怖いので今も実家に残してあります。
大学B 2022	131	家に毎日日家中の人間が話しかけているタンゴオのぬいぐるみがいる。それはもういつ日本語を話してもまったく不思議でないくらい話しかけている。小さくて丸いタンゴオの形に、母は家に赤ちゃんかいた頃を見ているし、私はそういう生き物が家にいたらかわいいうるうなと思っている。
大学B 2022	132	私の祖父母の家には、着物を着た日本人形が2つ置いてある。その日本人形は私の母と母の妹が産まれた際に、買った人形だという。
大学B 2022	133	いまと比べては恥ずかしいことですが、小学生から中学生にかけて、いつも寝るとき抱き枕の代わりとしていた人形がありました。その人形と一緒に寝るとなんだか落ち着き、いやなことから逃れることができるような予感さえしていました。
大学B 2022	134	私がかさいい頃持っていた人形といえば、ポケモンのフイキエアや動物のぬいぐるみなどでした。また、もうそれらのフイキエアやぬいぐるみは捨ててしまいました。捨てたというよりババサで売った記憶があります。私はワンシヨンに住んでいましたが、昔はそこでババサ一会みたのがあった記憶があります。そこで、要らなくなったらフイキエアやぬいぐるみは売ったと思います。
大学B 2022	135	家は子供の頃に購入した人形で溢れているため、断捨離を機にかなりの数の人形を捨てる決断をしたことがあった。その際、愛着が湧いているものに対しては洗濯や、ゴミ袋を要える、あるいは目隠しをするなどの工夫をした覚えがある。やはり大切にしていた人形ほど、当時の記憶を鮮明に思い出してしまい、なかなか捨てる決断ができなかった。そのため、最近では寄付をしている。
大学B 2022	136	人形ではないが、家にクワのぬいぐるみがある。そのクワは、私が生まれた時、産婦人科がキヤンペーンをやっていたか何かで、私の生まれた体重分の重さが詰まっております、自分の名前が書いてあるヨダレかけを付けている。そのクワを見たとき、私はそれが自分の分身のような気がして、子供の頃はよく話しかけたり一緒に寝たりしていた。
大学B 2022	137	幼少の頃によく祖母の家に遊びに行っていたのだが、寝室の棚にけしや日本人形が飾っており、とても恐ろしいものに見えていた。ある日そこでお泊まりし、寝室で寝ることになったのだが、夜トイレに起きた時暗がりに見えるくけしがかとても不気味に見え、その後しばらく日本人形などがトラウマになった。
大学B 2022	138	私が大仕事にしているのは人形ではなく羊のぬいぐるみですが、赤ちゃんのように顔に両親からもらったものです。いつもベッドサイドに置いてあります。小さいころはぬいぐるみとおままごとをした記憶があります。ぬいぐるみは幼稚園に入るより前から一緒にいたので最初の友達みたいな感覚です。だから大きくなっても手放したくないと思うし、もし結婚とかしても一緒に居たいと思います。自分が死んだら一緒に棺桶に入れてほしいとも思いました。

大学B 2022	139	幼い時から大事にしているぬいぐるみがあります。私が生まれたときに母の友人がくれたそうで、赤ちゃんのときは隣で寝ていました。引越しまだも有り10年近く押し入れにしまいっぱなしになっていったのですが、中学生くらいのとき、整理をした際にたまたま出てきて今も私の布団に置いてあります。10年ぶりに再会(?)したとき、私はそのぬいぐるみのごとは全く覚えていなかったのですが、不思議と一目でかわいい! と思うとても愛着が持てました。赤ちゃんのときそばにいたから、直感的に愛着がもてたのかもしれないと思います。
大学B 2022	140	私の妹は小さい猫の人形に名前をつけ愛着がわき、その後には飼うことになった猫の名前を人形と同じ名前につけました。
大学B 2022	141	私がか家で大切にしていた人形はリカちゃん人形であった。幼少期に人形への執着心はあまりなかったようであるが、幼稚園に通っていたころは、家に帰ってきてはリカちゃん人形を手を持ち、家を歩き回ったり、おままごとをして遊んでいたらしい。ここで少し変わった怖いエピソードであるが、私はそのリカちゃん人形の首に紐を巻き付けて、まるで人形を首吊りにしているかのようにして持ち歩いていたようだ。また、母が服を人形に着させても、すぐに脱がせようとしたりもしていたらしい。今でも恐ろしい話であるが、母も当時は、私のこの行動にはだいぶ困惑していたそうだ。
大学B 2022	142	私は幼稚園のときによく人形遊びをしていたが、その時はその人形に名前を付けて愛着を持っていた。着せ替えができるタイアプのもので、自分がその人形のお姉ちゃんないしはお母さんになったつもりでお世話をしていた。どのタイアプだったかは覚えていないが、近所の年下の子に一式譲って、今はもう手元にはない。
大学B 2022	143	赤ちゃんの時に母が作った人形(クマのぬいぐるみ)は使わないけれど捨てるという考えに至ったことが無いので、今も私の部屋の机の一角にその人形は座っている。特に邪魔だとも違和感があるとも考えたことないし時々干したりもしている。
大学B 2022	144	私自身大事にしている人形は居ないが、ぬいぐるみはある。小学生の頃にクマのぬいぐるみを母親に買ってもらい、非常に愛着が湧き、上京し一入暮らしている現在も、私と睡眠を共にしている。多少古びて毛がゴワゴワになつては居るが、捨てようと思ったことは1度もない。いずれ捨てる時が来ても、ゴミ袋に入れて燃えるゴミの日に出そうとは思わない。
大学B 2022	145	私がかつて猫のぬいぐるみを大事にしており、自分のベットのようにな可愛がっていたことがある。家族がアレルギーで美家でベットのかが飼えなかつたため、ぬいぐるみかベットの役割をしていたのかもしれない。ぬいぐるみに名前をつけて友達の家や外に遊びに行くときはずっと連れていった。
大学B 2022	146	小さい頃は、人形の日や質感が怖くてぬいぐるみで遊んでいました。ただ、ぬいぐるみにおいてもかなり感情移入して遊んでいた。引越しをする機会にぬいぐるみをいくつか選んで手放さないといけない時は、ゴミ袋に入っているところが目も当てられず泣いていたことを思い出しました。ずっと遊んでいたのに恨まれるのではないかという恐怖が大きかったのだと記憶しています。

大学B 2022	147	私の父が子供の頃から持っている金太郎の人形があるのですが、それは今でも大切に父の部屋に飾ってあります。他にも私の両親が子供/若い頃から持っていた、もしくは結婚祝いなどで、誰かから頂いた人形は沢山あったのですが、以前に人形供養に出してしまいました。しかし、その金太郎の人形だけは人形供養には出さず、大切に保存してあります。父の部屋の棚の一番上に飾ってあり、高いところから私たちを見守ってくれているような気がします。
大学B 2022	148	人形では無いが、私は小さい頃から持っていたぬいぐるみで、まるで生きているかのように扱っていた時期があった。そのぬいぐるみが踏まれれば「かわいいそう」という感情が湧き、枕にもしていいなかった。
大学B 2022	149	私の家には私が幼い頃から虎の置物大のぬいぐるみが置いてある。幼い頃からあるということや、本物の虎に酷似しているという理由から、愛着が湧いており、まるで本当に生きているかの様に扱ってしまう様なことがある。
大学B 2022	150	私の祖母は人形作りが趣味で、祖母の家には沢山の人形が飾られている。恐らく祖母が亡くなるまでは処分しないだろうが、確かに祖母の気持ちが残っている物なので、処分する日が来れば人形供養に出してあげたい。
大学B 2022	151	小さい頃から、ぬいぐるみを肌身離さず持っていました。今ではそのぬいぐるみはそんなに見ることがなく、中のワタなども出てきてしまいました。夢の中ではとても楽しくそこに動いていたということに、当時の自分はまだ意識していませんが、今の自分は少しおかしな気がします。
大学B 2022	152	一年程前に引っ越しした際、小さい頃から使用して物置にあつた人形を何個か捨てたことがある。その時、心が苦しいというか、人形に恨まれそうでもとても複雑な気持ちになつた。小さい頃、家族で旅行に行く時毎回人形と一緒に旅をしていた。持っていく人形にもこだわりがあり、小さいサイヌの人形を持ち歩いてきた。小さいサイヌの人形はやはり可愛い。
大学B 2022	153	小さい頃うちではペットを飼えなかつたので、代わりにぬいぐるみを買ってもらって、名前をつけて可愛がっていました。櫛で毛並みを整えたり一緒に寝たりしていました。うちにはたくさんぬいぐるみがあつて、先日母が捨てようとしてしまいましたが、いちばん可愛がっていた犬のぬいぐるみは捨てないでくれと頼みました。つけた名前ももう忘れてしまいましたが、とっておいています。また、可愛がっていた人形の前髪を切ったり、お風呂に入れたりど、その人形に想定されていない遊び方をしていました。(着替えさせることが目的の人形)。
大学B 2022	154	家で大切にしている人形は、生まれた時から一緒にいる小さいヤギの人形がいます。長い間一緒にいるのでなかなか捨てられずにいて、20歳になつた今でも持っています。

大学B 2022	155	私が3歳の時、母が妊娠し、難い出産だったため長期の入院をした際に、寂しくないようにと金髪青目、40～50 cmほどの大きな女の子の姿の人形をくれました。当時の私は「マホ」と名付け、妹のように扱い、常に一緒にいました。現在は一緒に寝たりはしていませんが、まだ部屋に飾って置いてあります。たまに疾が乗っていたりするを払ったり、髪をブラシで解いたりします。「マホ」は今ほとんど使用していませんが、なんとなく捨てる気にはなれません。16年の付き合いなので、愛着もあるし、また捨てたら何かありそうだなという気持ちもあります。きっと、いつかマホを処分する時は供養するだろうなと思います。
大学B 2022	156	私は某大のキヤラクターのぬいぐるみと、某芸人の人形を大切にしている。特に、犬のぬいぐるみは約18年間、一緒に過ごしてきた人生において非常に重要なものであるといえる。テレビを見ていたり、勉強をしている時に近くに置いたり、握ったり、話しかけたり、一緒に寝るなど、私にとってもそれらの人形は家族の一員ともいえる存在である。もし不要となったり、私が死んだとしても、それらを供養したり棺桶に入れる事はないだろう。形がなくなってしまうということを恐れているから。
大学B 2022	157	最近、小さい頃から大事にしていた人形を処分した。雛人形などではなく、おままごとなどに使うようなうさぎの人形だった。その際に、神社等で本格的な供養はしなかったものの、好きなお菓子と共に紙袋に入れて捨てた。他にも人形を沢山捨てたが、そのうさぎの人形に比べるとあまり愛着がなかったためゴミ袋に入れて捨てた。
大学B 2022	158	私は今は亡き叔父に買ってもらった人形を未だに押し入れにしまっており、それが愛着もあるが捨てることによる恐怖感ももっている。もうひとつは、母親に作ってもらったうさぎの人形を捨てられずにいる。
大学B 2023	159	家にあるものとしては、小学校の時にもらったふなっしーの抱き枕があり、もう8年の付き合いになり、とてつもなく汚いけど使っている。
大学B 2023	160	生まれた時に祖母からいただいたひな人形、後は小さいころに遊んでいたリカちゃん人形があります。ひな人形は毎年防虫剤を交換するなど大切に保管しています。リカちゃん人形は全部で3体所持しており、自分でも記憶していないほど小さいころに購入してもらったもの（2体）は髪がぼさぼさになってしまっています。またもう少し大きくなったから（小学3年生ほどの頃）購入してもらったもの（1体）は髪をきれいに保存しようとして自分でも気をつけていたため、きれいに保存されています。人形本体よりも眼の方がきれいに保管しようとして小さいころから思っていたのかなと思います。人形よりもぬいぐるみの方が家には多く、ぬいぐるみの方を特に大切に扱っています。未だにともに寝ていたり、ほこりを被らないようカバーをかける、布団に寝かせるなどしています。

大学B 2023	161	私は人形やぬいぐるみにあまり興味は無いが、母親にドール趣味があり、家に数え切れないほどのものがある。一時期はリボンドールに没頭していた時期があり、なぜ集めるのかときいたら子供（私）の幼少時を思い出すことができるから、だそう。最近では手のひらサイズのドールやぬいぐるみ集めに没頭しているが、とにかく数が多いのでいざとなったときの供養はどうするのか少し心配になっている。私が今大事にしているのは、一人暮らしを始めた時に飼った猫に似ているから、と母親にプレゼントされた猫の人形だ。飼った猫を思い出すことができるし、部屋に飾っておくと癒し効果がある。
大学B 2023	162	私の家にもぬいぐるみが沢山あり、捨てづらいいのでどんなたまってしまいついてしまつてある。やはりそれそのぬいぐるみには思い出があるので、捨てるには「かわいそう」と思つてしまつてしまい抵抗がある。私の母は40年以上大事にとつてあるぬいぐるみがあり、母が小さい頃に母の父が買つてくれたもので、父が早くに亡くなったこともあり、形見のよう捨てられないと言つていた。
大学B 2023	163	家の屋根裏を整理した時に出てきた西洋の人形をお寺にお願いして供養してもらつたと言う話を祖父から聞いた。長い間収納していたため、簡単に捨てるのはよくないと思つたらしい。私自身、幼い頃に買つてもらつた大事なパンダのベベツト人形をもし陸乗しなくしてはならないとなつた時、供養しなくしてはいけないと思つていた。それは私がその人形に対して愛着を持ちすぎているため、そんな言い振いをする可哀想という気持ちから出てきた感情によるものである。
大学B 2023	164	10年ほど前にいとこが交通事故で亡くなった際にいとこの家からぬいぐるみをもたらつた。亡くなつたいとこはユーフォーキヤッチャーでぬいぐるみを取ることが得意だったので彼の部屋にはたくさんぬいぐるみがあったが、それらから一つずつ各親戚の家に配られ遺影のそばに置いておいてほしいと言われた。大量にあるぬいぐるみの一つでしかなかったものに対し、急に意味を見出すようになったのは、そのぬいぐるみを見て生前の彼の姿を想起することを求めたからだろう。
大学B 2023	165	私の家では「毎年の祭りにひな人形を飾らないと嫁に行けなくなる」と言つてひな人形を飾っています。自分で選んで買つた人形ではないし、年に数日飾るだけなので特別愛着がある訳ではありませんが、もし引つ越したく人形を処分しなければならなくなつたら、人形供養をするのではないかと思ひます。なぜなら、嫁に行けなくなると思つて飾ってきたので、もし供養せずに捨ててしまつたら本当に嫁に行けなくなるのではないかと思うからです。私は好きなキヤッチャーのぬいぐるみを買つ時に、目や輪郭など個体差があるので、顔がでるだけ好きでかわい「この子じゃなきゃダメなんだ」という気持ちか強いので、前にもぬいぐるみをなくしてしまつて新しく同じ商品を買に行きましたが、最初にお迎えした子よりは愛着がわきません。

大学B 2023	166	昔からプレゼントでぬいぐるみを買う機会が多くて、1度クリスマスの際に、ケアベアというくまのぬいぐるみがいるのですが、お腹に虹や雨、ハートなどが描かれていて、テレーによって黄色や青など、ケアベアの色も違うので、恐らく何十体もいます。私は全種類欲しくてプレゼントしてもらいました。しかし数年後、沢山貰ったのもあって、置き場所に困り、中学生になって大掃除の時に捨てしまおうかという話になりました。でも、沢山遊んで捨てるのは少しばかり忍びなくなかったので、施設に送ることにしました。たまに古着でケアベアのスウェットやTシャツを見ると大事に取っておけば良かったかなとも思いますが、ぬいぐるみのことを考えたら子供に遊んでもらった方が幸せだと思います。
大学B 2023	167	私の大事にしていた人形は、絵本「ハムとケロ」シリーズ作中に登場する小さな犬「ヤメビの人形」である。小学庄から今に至るまで様々な場所へ持ち歩き、いわゆる「ぬい振り」をしていたことがあったことを思い出した。
大学B 2023	168	家で大事にしていた人形のエピソードとして、小さい頃に、アイズニーのキャラクターであるクマのテレーさんが好きで人形を買ってもらい、不安やストレスを解消する為に寝室に置いていたことがあったことを思い出した。
大学B 2023	169	私は昔、水族館で買ったカッパのぬいぐるみを大事にしていたが、長年大切にしていくなりに汚れて壊れてしまい、処分せざるを得なくなった。おばあちゃんがそんなに大切にしているのならと近くに神社にお願いして供養してくれたのを見ていた。その後お母さんが新しい、同じカッパのぬいぐるみを私に買ってくれたが、何だか前のぬいぐるみとは違う気がしてそれ以降私はぬいぐるみで遊んでいない。
大学B 2023	170	我が家では、不思議な基準があり、人形と会話が出来るかどうかで、その個人の人間性や温かさを評価することがある。叔母に、人形と喋ることが出来るんだね、よかったですと母が言われていたと聞いた。人形と喋ることが出来るかは、そういう意味もあるのかも知れない。
大学B 2023	171	アイトルが好きなので、そのアイトルを模した人形が家にあります。自分はそのアイトルの代わりのように可愛がって推し事の一部として活用しています。例えばライブに行った際にその人形と一緒に周りの風景を撮ったり、アイトルとの撮影会でアイトルと共に写ったりして本人にその場でリアクションを貰ったり、それをSNSに載せてフアン同士で交流を深めたりしています。その行動をすることによって、本人に対しての想いも深まるため、より楽しむことができます。
大学B 2023	172	私は幼少期に知音人形であるメルちゃんを大切にしていた。親族の中で自分自身が1番年下であったため、メルちゃんは唯一私が姉になれる人形であった。メルちゃんの髪の色で三つ編みを練習し、自分自身で三つ編みをし幼稚園に行っていたこともある。今振り返ると、メルちゃんを通して、できるようになったことは少なくないのではないかと思います。

<p>大学B 2023</p>	<p>173</p>	<p>私はワンピースのゾロが好きで抱き枕を買おうと思ったが、隣にゾロがいなければ緊張すると思ってなかなか買うことが出来ていない。抱き枕もただの人形なのに寝たかと思っているわけがないがなかなか買うことが出来ないし、私も買った人形は捨てたら悪い事がおきそうでなかなか捨てられない。また、私は寝相が悪く、小学生の時寝ながらもすごく怒っていたときに人形が少しきれてしまって、朝起きてから人形にもすごく謝ったのを覚えている。自分で縫いつけ処置を施して沢山遊んだことで悪いことが起きないようにしていた。アイズニーで働いている姉の彼氏が、アイズニーのフレンチは新作のカチューシャやぬいぐるみが出たら列をつくり発売日に並び、同じ人形の顔をそれぞれじつくりとみてどの子を買うか決めている人が多いと話していた。アイズニーのレストラフに人形を席に座らせて喋りながら一緒に食事をしている人などを見て、本当の友達のように扱っていて興味深いやと感じた。</p>
<p>大学B 2023</p>	<p>174</p>	<p>昔、カメが好きでカメのぬいぐるみを集めていたのですが、とくにお気に入りのぬいぐるみは何をするにもずつと一緒にいて、洗濯をひんぱんにしています。洗濯するとすぐに悪くなると母親に注意されてもなお、頻度は変わらなかつたので、「洗濯することでお愛が強くなる」という意図が自分の中ではあったと思います。自分が今気に入っているものとして、楽器（ベース）があるのですが、あえて傷をつけてボロボロにするレリク加工という仕様を施しており、自分の中には「使い込むことで愛着が湧く」という原理があるのだと思います。</p>
<p>大学B 2023</p>	<p>175</p>	<p>私が幼かった頃、小学校低学年ぐらいだったと思うが、お気に入りだったリラクワラのぬいぐるみをお出かけた時になくしたことがある。なくしたことに気づいた私は大いに泣き、見かねた父が立ち寄ったコンビニにまたまったリラクワラのぬいぐるみを買ってくれた。その場では落ち着いた私だっただけで、その子は元の子と違っていて結局リラクワラは私のお気に入りの座から退いた。父にとってはリラクワラのぬいぐるみは同じに見えただろうし、当時の私もその考えは持っていたのだらうと思う。実際泣き止んだのはリラクワラのぬいぐるみのおかけだし、しかし、後で気に入らないうと思ったのは、私が元の子に執着心を持っていたからだらうか。</p>
<p>大学B 2023</p>	<p>176</p>	<p>家で大事にしている人形のエピソードですが、我が家ではテーマパークなどで多くの同じぬいぐるみの中から購入するものを選ぶ際に、1体ずつの心の中で話しかけながら決めています。母曰く、話しかけていると「この子だ！」と思うぬいぐるみが感应的に見つかり、そのぬいぐるみと通じ合ったような感覚が得られるそうです。ぬいぐるみは縫製によって顔のパーツ配置などに個性差がありますが、話しかけながら決めたぬいぐるみは後から俯瞰的に商品全体を見直すと1番可愛い顔をしている気がするとも言っていました。そうした母のやり方に倣って、私もぬいぐるみを選ぶときはつい話しかけてしまいますし、そうやって選んだぬいぐるみには家族のようなくらい愛着の感覚を覚え、実際に我が家で大切にしているぬいぐるみたちは顔付きが特別可愛いように感じてしまうことも事実です。恐らく話しかけているつもりになりながら、主観的にパーツ配置が1番整っているぬいぐるみを選んでいますが。</p>

大学B 2023	177	小学校低学年の頃から一緒に寝ているくまのぬいぐるみがある。かつては抱いて寝ていたが、触れることも少なくなったのにも関わらず、ずっとベットの隅に置いてある。捨てたり別の場所に置いたとしても生活に支障は出ないのだが、場所を変えると「何か足りない気がする」と思って結局ベッドに置いてしまう。このくまのぬいぐるみに対して愛着が湧いて、寝る時に一緒にいてくれる存在として居なくってはならないものとなっている。
大学B 2023	178	私の家にはマルちゃんとぼぼちゃんという2つの赤ちゃんの人形があったのですが、私はぼぼちゃんの方だけを大事に扱っていました。マルちゃんは新しく綺麗であったのに対してぼぼちゃんは姉のお下がりで顔が汚れていたり髪が乱れていたりしたので不気味であり、怒らせてはいけないうような気持ちがありました。本当はあまり触りたくなかったのですがマルちゃんとだけ遊んでいると怒るのではないかと思ってしまうかもしれません。また、マルちゃんの方はなんの躊躇もなく風呂に沈めたりしていたのですか、ぼぼちゃんに対してはいたすらで顔を触っただけでも申し訳なく感じたり風呂に「ごめんさい」と言ったこともありました。
大学B 2023	179	私には小学校の頃に親にクリスマスプレゼントでねだって買ってもらったチエラシーカの子ごいがかいい人形がある。それが今でも捨てられずにいるのだがその理由としては、大掃除などで毎回私がかそる捨ててもいいののではないかと相談するとそれいくらしたかわかってるの？あなにか欲しいって言って買って買ったのよと言われてしまい10年近くずっと我が家にいる状態となっている。ここまで来ると今更捨てることも出来ずにいるというのもあるが捨てるのも親に申し訳なくなったというエピソードがある。
大学B 2023	180	私の家で大事にしている人形は雛人形です。私の母が子供のころに買ってもらったものだから、7段揃っていています。ですがややおはりスペース的に邪魔になっってしまうので、最近はお雛様とお内裏様だけを期間中では飾っており、ついには今年、母が「今年でこのお雛様たちは処分しよう、供養して新しいおさなものを買おう」と言い、今後人形の供養に出す予定です。私としては毎年飾っていた思い出のあるものなので今後飾りたいのですが、1年に1度しか飾らないのにも関わらず、とてもスペースをとっているのでも仕方がないとも思っています。そして母が人形供養しようと言ってきたのは怖いからだそうで、なんとなく、そのままごみとして捨てると呪われてしまいそうだからという恐怖心から人形供養を提案してきたそうです。
大学B 2023	181	自分も犬のぬいぐるみを持っていてそのぬいぐるみは自分が生まれた時からそばにいてるものである。もはや今となつては家族あるいはペットのように家にいて当たり前前の存在である。また自分自身このぬいぐるみがあるからこそ本物のペットを飼う事は何か裏切り行為のような気もしている。家にいた人形として五月人形である金太郎の武者人形が挙げられます。自分は何かの切り方について考えた事がなかったのですが母親はこの人形を通して僕が元気に健康に育ってほしいと思っていたそうです。また甥も家にありました。
大学B 2023	182	自分自身が人形にとっても夢中になっていたというよりは、弟が夢中になっていて、それに自分も付き合うというような感じだったと記憶している。また、人形(ぬいぐるみ)の種類としては、兄弟そろって動物が好きだったため、動物系のものがかなり多い。なお現在でも人形(ぬいぐるみ)自体は現存しては、兄弟そろって動物が好きだったため、してしまったため、今では見て「思い出を振り返るためのもの」として役割を変えている。

大学B 2023	183	私が生まれたときに母親の友人がくれたゾーさんのぬいぐるみを今でも部屋に置いている。小さいころの写真には必ず写っているくらい持ち歩き、日に焼けていたり剥がれた眉毛を張り替えたり、かなりややつれていますが、私が死ぬまで持っているつもりだ。家では、祖母が作った木目込み人形が20個ほどあり、干支や季節の行事に合わせて玄関に置いている。玄関に飾るといふ形が我が家では確定しているため、今後それらを捨てることはないと思う。
大学B 2023	184	私は昔から人形遊びが大好きだったので、何十という人形を持っていた。全てに名前をつけ、一つ一つ思い入れがあるため、捨てることができず、今になって使うと言うことは全くないが、実家の倉庫に全て保管したままになっている。特に大事にしてしたのは、「マルちゃん」という女の子の人形で、たぐさんの着せ替え用の服や折り畳める家、ベビーカーなど当時あった「マルちゃんグッズ」は全て持っていたと思う。人形というよりも妹のように扱っていたらしく、私が母に怒られることがあった時も「マルちゃん」のせいにするなど、姉妹ごっこを楽しんでいた。
大学B 2023	185	大事にしてしている人形があり、私が生まれた際に裁縫が得意な母親が作ってくれた人形があります。私が物心のないときにずっと遊んでいたらしく、私の小さい頃の写真にもよく写っています。私自身遊んでいた記憶はなく、前に母親がボロボロだからもうこの人形捨てようよと言った時、私は遊んだ記憶が無いにも関わらず愛着が湧いており、捨てられませんでした。ボロボロになったから捨ててしまったら何か用済みだからもういいらなと言ってしまったように捨てられませんでした。
大学B 2023	186	私の家にはアインシーで購入したクワのぬいぐるみがある。アインシーの店頭にはこのクワと全く同じ形をしたぬいぐるみがありと並んでいる。遠くから見ると皆顔が同じように見えるが、近くでよく見ると顔のバラツクスや目にかかる毛の具合、笑顔を浮かべている表情等、全く異なっている。私はずっと見ていると違和感を感じない目と目が近すぎず遠すぎずちょうど良い位置にある子を探し出し購入した。同じ形状をしているぬいぐるみが沢山あったとしても私が選んだクワは世界でたった唯一の存在となった。もしこのクワのぬいぐるみが失われてももう一度購入することはないだろう。
大学B 2023	187	私は、小さい頃からシルバニアファミリーを大切にしています。幼少の頃はミニチュアの家の家で家族のままごとをさせていましたが、大学生になった今では毎日持ち歩いています。ご飯を食べる時はカバンから出して一緒にご飯を食べる気分を味わっています。私の場合は可愛いのですと大切にしています。小さい頃は自分の思うように動かして遊んでいましたが、今は一緒に居たいという気持ちが大きいです。シルバニアが無いと精神的に不安定になるといふ訳ではありませんが、あるとどこか落ち着きます。
大学B 2023	188	昔、おままごと用に使うようなゆりかごに入った赤ちゃんのぬいぐるみを祖母に誕生日プレゼントでもらひ、よく抱っこをしたり、話しかけたりなど一緒に遊んだりしていました。ある日、インフルエンスにかかり、タミフルを服用した際に天井からそのぬいぐるみが私に笑いかけているのが見えて私も嬉しくなりずっと一人で笑っていたことがあります。薬の副作用で幻覚が見えていた可能性はありますが、熱で辛い中家族は移らないように他の部屋にいたのでとても安心したのを覚えています。

「人形」との交流

大学B 2023	189	<p>我が家には「しちやん」という白い犬のぬいぐるみがいる。特に妹がしちやんのことを気に入っていた。元々は姉のぬいぐるみだったが、赤ちゃんだったときの妹がしちやんを気に入らずと肌見放さずに行ったことから姉のものになったと聞いた。保育園に行くときも、基本的におもちゃを持って行っていけなかったが、あまりに離れるのを嫌がったので持って行つたよな気がする。保育園の担当の先生にもしちやんがぬいぐるみに入られていた。他にも妹はいくつかぬいぐるみや人形を持って特にマルちゃん人形を気に入っていたが、そのマルちゃん服を剥がしてしちやんに着せ、最終的にマルちゃん服はしちやん用となった。当時、妹が描く絵はほとんど全てしちやんだった。妹があまりにもしちやんを好きだったのだでなく我が家でもしちやんは特別な存在で、妹が小生に上がるときは「頭を紐をつけてストライプにする」「ラッセルの奥にはしちやんを入れる」などしちやんを学校に持つていく方法を制と本気で話し合つた。妹が高学年になる頃にはしちやんは黒ずんかった。しちやんは切れてしまった。母はしちやんと同じ新しいぬいぐるみを買えばと勧めたが妹は買いたがらなかった。そんな妹も大きくなるにつれてぬいぐるみへの愛着が薄れ、押し入れや机の奥にしまうようになった。けれど、しちやんだけは今ベッドの枕元にいるのだと妹が話してくれた。</p>
大学B 2023	190	<p>大事にしている人形のエピソードは2つある。1つ目は、幼い頃に買ってもらった3体（と数えるのか？）のぬいぐるみを今も大切にしていることだ。3体が収まる少しオシャレなカゴに入れて、自室のベッドの上に置いてある。小学4年生くらいまでは毎日のように動かして遊んでいたし、一緒に寝ていたと記憶している。買いた物や旅行に行く時も一緒に連れて行くほどずっと一緒にいた。他にも複数のぬいぐるみを持っていたが、その3体だけは何故か特別だった（人手段はそれぞれバラバラだったと思う）。だから、子供の頭のおもちゃを処分しようとかクローゼットを整理した時、その3体だけは捨てられなかった。大学生になった今、彼らを動かして遊ぶことはないが、目が合った、と感じる時「運ばなくたってごめんね」とつい話しかけてしまうこともある。それほど長い時間を一緒に過ごしたので、手放すには大変な苦しみを感じるのだ。2つ目は、両親が大切にしているぬいぐるみのことだ。私の母はアイズニーキャラクターの「ウルトラ」が大好きで、父と結婚する前に購入したウルトラのぬいぐるみを今も大事にしている。そのぬいぐるみがどのように扱われているかという、いわゆる「人形愛」に近い。ただし、アイズニーキャラクターとしての「ウルトラ」ではなく、「ウルトラ」のぬいぐるみを使つた。父と母によつて形成されたオリジナルのキャラクターだ。父と母がウルトラを喋らせる時には裏声を使って会話している。「おはよう！ 今日はお雨らしいよ、傘忘れないようにね」「おやすみ！ ……ウルと一緒寝る？」といった日常的な会話もあるが、会話の中で母がふざけてわざと横暴なことを言った時に父が「あー！それは○○くん（父）が可愛想だなあってウルは思っただとおし」と言いながらウルトラを動かしたり、母が「海行きたい」と言った時に父がウルトラを持って「ウルは次の旅行で北海道行きたい」と言ったりなど、ぬいぐるみを通じて意思を伝えることもある。母と父は、交代でウルトラを動かして会話するという愉快な遊びを、コミュニケーションの一環として、結婚してから現在までの約20年間続けている。もはやオチの文化だ。余談だが、母には「ウルトラは私の棺に入れてね」と頼まれている。母にとつてそのぬいぐるみは本当に思い入れの強い存在なのである。</p>

大学B 2023	191	家にある人形に関するエピソードとして、自分と姉は子どもの頃、両親が新婚旅行で買ったアロハシャツの歌を歌うサンタクロースの人形を飾っていたことを思い出した。おそろくは老練の男性の低い声で歌うのと、耳障りな駆動音、妙にリアルな顔の造形が怖かったのだと思われる。父は我々が言うことを聞かなかったりするとその人形を取り出し、起動させて言うことを利かせた。何年も前になるが、ある程度大きくなった後に私がそれを見ても嫌悪感には特に覚えなかったが、姉はまだ拒否反応を示していた。
大学B 2023	192	私には幼少期から大切にしているくまのぬいぐるみがある。旅行に行く際なども連れて行っていた。名前をつけているわけではない。大学進学を機に引越してきた。子供の頃とは違って頻繁に触れるわけではないが、同じ部屋に置いておくだけで安心できる自分がいる。見た目が古くなっても処分するつもりはない。
大学B 2023	193	小学生の時に購入して、今でも毎晩一緒に寝ているぬいぐるみ（お手玉）があります。買い物に行ったり遠出をするときには必ずカバンに入れて、一緒に出掛けて思いい出を共有している大切なぬいぐるみです。ぬいぐるみ自体はぼろぼろで汚れてきていますが、同じ種類のぬいぐるみでも換えがきかないほどには愛着があります。なので、私が早くに死ぬことになったら、そのぬいぐるみも棺に入れて、一緒に燃やして埋葬して欲しいと母に伝えるほど大事なものですよ。
大学B 2023	194	大事にしていたかと言われると難しいのだが、家には昔母の友達が彼女にプレゼントするつもりだった1メートル？位はある大きいミニチュアちゃんがあった。理由は忘れてしまったが、譲り受けたのだという。私が産まれる前から居てこの前庭葉をしたのだが、やはり母としても捨てられないという気持ちがあったようだった。やってきた情景や思い入れからという訳ではなく、手足が長く人に近い形をしているのでなんだか捨てづらい、のだったと思う。また、私は小さい頃に買ったぬいぐるみも今でも捨てられない。それぞれに思い入れがあり、粗末な扱いをするとは何か罰が当たるような気がしてしまう。
大学B 2023	195	友達が大事にしていた人形の話がありました。小学校の時に友達の家に泊まった時に、起きていない時間だった真夜中に撮られた部屋の窓の写真が、アズホのカメラロールにありました。その友達の部屋にはたくさんの人形が写っていて、ちよとどその画角で窓が映る位置は、人形がたぐさんある場所だったので、友達が人形を大事にしていたから写真を撮ったのかなと思います。
大学B 2023	196	家で大切にしているくまのぬいぐるみがある。私が生まれた時につくったもので、生まれたときの体重と同じ重さのくまである。私が1回ぬいぐるみを捨てたかということをやったが、親の方がぬいぐるみに愛着があるため断られた記憶がある。そのくまのぬいぐるみは私が死ぬまで捨てられないものになると感じた。

大学B 2023	197	実家には小さい頃遊んでいた大量の人形やぬいぐるみが押し入れにしまっている。個人的にどのぬいぐるみも愛着があり、自分のものだけでなく高校生の子もお気に入りのお気に入りのものを大事に持っているため、処分も供養もしたが、あまりにたまっていく状況である。弟のお気に入りのお気に入りのぬいぐるみに関しては、保育園のころからもっているもの、茶がほつれたら母に修復してもらったり定期的に洗濯をしているようだ。小さい頃のようにぬいぐるみを愛でているというわけではないはずだが、いまだに布団に置いておくなど、相当執着がある。そのぬいぐるみはアニメのキャラクターを模したものの。
大学B 2023	198	自分は多くの人形を保管しているが、愛玩用の場合全て無名の動物のぬいぐるみで、個体の固有名詞を持ったキャラクターのぬいぐるみは自分だけの存在として愛着が持てず、苦手である。しかし「好きなキャラクター」として鑑賞する場合のぬいぐるみやフィギュアも持ち合わせている。
大学B 2023	199	自分の家では最近になって人形やぬいぐるみをたくさん購入しているのですが、子供の頃にぬいぐるみを買ったのも一緒に寝るときなどにも一緒に過ごして会話はしないものの愛着を持っていたのですが、海外に旅行した際にも一緒に連れていったのですが、帰るときに行方不明になってしまい、そのときは結構愛着あるものがなくなってしまうことに泣いてしまった覚えがあります。また、当時帰ってきたときに愛わりとして似たようなぬいぐるみを買ったものも拒否してしまいました。ただ、そのような経験もあって今になっても同じようなぬいぐるみを買って部屋においています。
大学B 2024	200	私は人形やぬいぐるみを小さなサイズのものも含めて多く持っていますが、代替不可能なものという感覚はやはり強くあります。大事にしている人形としては、少しお恥ずかしいですが羊のぬいぐるみ(商品としては羊の形をした抱き枕)を小学生の頃から現在でも寝る時には抱いて寝ています。小学生の頃にはそのぬいぐるみを使っていわゆる人形遊びのようなものもしていました。ときどき洗濯をしたりしてまで、長年大切にしている存在です。
大学B 2024	201	私は、気づいた時からずっと一緒に居る人形がいます。自分ではいつからというのは正確には覚えてませんが、生まれてきてからの写真を見ると、9割くらい一緒に写っていて、ちよつと公園に行くときも、ちよつと買い物に行くときも持ち歩いていたという話を親から聞きました。今は持ち歩くことは無いですが、自分の部屋の机の上にはちよつと座っています。
大学B 2024	202	家で大切にしている人形は雛人形である。人形の人数は10人で、毎年欠かさず飾っている。クリスマスツリーや五月人形(兄弟がいます)は続かなかつたが雛人形は今も欠かさず飾る。母親は子供の頃雛人形を買ってもらえなかつたらしく、それもあるが毎年飾るのを楽しみにしているようである。雛人形は私のために買い与えたものなので、片付けなどは私も必ず参加している。
大学B 2024	203	3歳の時に人生で始めて買ってもらった雛の人形があるのだが、今でも買ってよかった時の記憶のようなものが残っている。3歳の時のことなので事実なのか、その後に見た夢幻かわからないのだが非常に大切にしていたことを覚えていてる。

大学B 2024	204	私も多くの人形を持っているが、まだ捨てずにいるものが多い。捨てる基準になるものは破けてしまったり汚くなつてしまったりしたものには捨てている。(母の独断と偏見で半分母の勝手に捨てられてしまうことが多い)私は幼い頃は動物を中心としたぬいぐるみが多く持っており寝る時に持っている全てを並べてその日あったことや面白い話をぬいぐるみに対して話していた。また、旅行に行く際は一番気に入っているぬいぐるみを持っていった。
大学B 2024	205	幼稚園から小学低学年の頃に、フリーマーケットで10円ほど買ったクマのぬいぐるみが未だに残っています。なんとなく捨てられないというのがありますが、これ以外にも貰ったクマのぬいぐるみも捨てられませんが、ぬいぐるみを洗濯すること自体に抵抗感があるらしいです。かわいそうだからです。
大学B 2024	206	私は小さい頃から人形にほとんど興味を示さず、捨てるときも可哀想、といった類の感情を抱いたことがない。一方で母は高校生のころまで人形に依存していて、20体以上を毎日ベッドサイドに並べており、捨てるときは一体ずつ感謝の気持ち伝えて別れる決意をしたという。私と母の大きな違いは家庭環境である。(私は育児熱心な専業主婦の母に育てられ、常に猫がそばにいた。一方、母はシングルマザー家庭で、いつも母親が家におらず家事をしかかったという。)
大学B 2024	207	5〜6歳の頃に兄から誕生日プレゼントでもらった小さな大のぬいぐるみをずっと大切にしていました。小中学生向けの雑貨屋で売っているような安物だと思いますが、やけに私が入ったときや夜一泊に過ごしていたらしく、低学年の頃までは旅行にも持って行って行っていました。手元から離れるのが嫌だったのと、洗濯機で回されるのがかわいそうだという理由で、クローゼットに出すのをとても嫌がったのを覚えています。さすがに上京する時には持ってきてみせんでしたが、実家にはまだあります。母もあのぬいぐるみだけは処分する気がないそうで、私が捨てない限り、今後もずっとありそうです。
大学B 2024	208	私は小学3年生頃から大切にしている抱き枕ぬいぐるみがある。それは秋田に住んでいる祖父に買ってもらったものだ。そのぬいぐるみはもう使っておらず、私のクローゼットの中にあるが捨てられない。何度か捨てようかとも思ったが、もう体が悪く関東に来ることが出来ない祖父をいつも思い出して捨てることが出来ない。どうしても祖父が亡くなってしまったら、ということを考えてしまうからだ。きっとその時にそのぬいぐるみを通して会うことが出来る貴重なものになると思うのだ。
大学B 2024	209	人形やぬいぐるみの話だと、私が真っ先に思いつくのはニッキマナコのぬいぐるみでしょうか。小4くらいの時に水族館でお迎えした80cmくらいある抱き枕なのですが、名前を付け、かれこれ10年近く抱いて寝たり(これに関してはもともと抱き枕なので本来の役目を果たしているとも思えます)が、布団をかけて寝かせたり、昼間は2階の自室からわざわざリビングまで連れて行ったりと、もの言わぬ布とわたの集まりに対する扱いにしては好待遇?をしていると自分でも感じています。また、好きなキャラクターのぬいぐるみを連れて旅行に出ることでキャラクターと一緒に旅をしている気分になったり、いわゆるモノカ擬人化されたキャラクターは、そのモチーフ(私の場合は刀剣なので、模造刀)を観賞用に所持してキャラクターの存在を感じていたこと、人の形ではなくとも人形の扱いに近いのではないかと思います。

「人形」との交流

大学 B 2024	210	小学生の頃、誕生日に「ビルドアベア」いうところのぬいぐるみを作ることが恒例になっていました。何店舗か日本にあったのですが今は日本から撤退しています。ぬいぐるみのおボディから自分で一から選び、糊入れてシワで居貞さんと綿をいれ、最後に命を吹き込むというところでハー卜型のチツツもしくは心音がなるボタンをいれ折りを込めます。最終的に出来上がった子の出生証明書を作りました。これまでの工程を踏んで作ったぬいぐるみは愛着が湧いてしまい、出生証明書と共に手放すことはなかなかできません。ここでぬいぐるみを作る機会が多かったため、ぬいぐるみ全てに対して強がっというところで、トイストリーみたいな自分がないところまで動き出すんじゃないかと思うことがあります。
大学 B 2024	211	子供の頃母親のお下がりの人形をそのまま買った。母が子供の頃その人形の髪を切ったらしく、髪がカタカタになっていて可哀想だったので、切り揃えた記憶がある。その思い出から持っている人形の中で今でも愛着がある方である。また、子供の頃人形の服がないのも可哀想だと思って、自分で簡単な服を作って着せていた。服が破れたものは修繕したりもした。買った人形やぬいぐるみはなんだかんだ捨てられず、かといって使わず部屋に飾られている。
大学 B 2024	212	私が1番大切にしているのは母の手作りのうさぎの人形だ。母は裁縫が趣味で昔からさまざまなものを作ってくれた。市販のものも買ってもらったが、やはり母の手作りに愛情を感じて大事にしている。
大学 B 2024	213	ぬいぐるみにはとても愛着がわいており、ほぼ生きているかのように扱っている。家で大切にしている際のぬいぐるみがある。「ボーちゃん」という名前をつけて、一緒に寝たり、リュックに入れたり車に乗せたりして旅行に連れて行ったりしていた。全く物欲のなかった3、4歳の私が初めて自分から欲しいと言ったものだったのでとても思い入れがある。
大学 B 2024	214	家で大事にしていた人形は、曾祖母から貰ってきた狐の人形です。戦前に作られたものらしいのですが回り回って私の元へやってきました。特に不思議なことは起きているとは思っていませんが、色んな人の手に渡って私の元へやってきたのでやはり畏れをすべきではないかと思っっている最中です。
大学 B 2024	215	幼稚園生から小学生時代、かわいい人形を買うのはもちろん携帯ショツツのおまけの人形までもらえる人形は全てもらってきていました。当たり前ですが、置き場に困り、部屋の大掃除をきつかけに捨てることになりました。今まで何度かの掃除の際には捨てにくいからと見送っていましたが、もう人形で遊ぶ歳でもなくなってきたので、踏ん切りがきました。といっても、子供時代と一緒に過ごした人形であり魂も籠っという感じでなかなか捨てにくく、全での人形を最後に愛でて、音が鳴る人形は音を鳴らして機能を十分に利用し、ジツツ袋に一つずつ「ごめんね、ありがとう」と言って綺麗に並べ、他のジツツ袋とは別に捨てました。特にお気に入り人形何個かは取っておきました。優劣をつけるようで人形に怒られるんじゃないかと少し怖かったです。特にお気に入りの人形何個かは取っておきを感じたのでそれからは本当に気に入った人形のみを手取るようにしています。
大学 B 2024	216	自分自身では大事にしているわけではないが、自分の家に日本人形が飾ってある。私のおばがその日本人形をずっと大切に扱っていて、私が生まれた時からあるものだった。

大学B 2024	217	私の家では大事にしていた人形が綺麗な状態であれば観成の子に譲り、古く汚い状態なら段ボールにしまっている。人形では無いが、ぬいぐるみについて印象に残っている話があった。ひとつは、私が子供の頃好きで持ち歩いていたいぬのぬいぐるみについて。名前をつけ、どこに行くにも連れ歩いていたが、小学校以降は連れ歩かなくなつた。捨てるのはなんとなく心苦しかったが、連れ歩かなくなることには罪悪感を抱かなかった。あくまで人間側に用途の主導権があることを自覚した上で、しかしぬいぐるみ側にこちらを恨む気持ちがあるように思っていた。ぬいぐるみと自分の間には、精神的な上下関係があった。もうひとつは、祖母に買ったぬいぐるみである。買ったからしばらくして、曾祖母の遺品であることを知らされ、それ以降身近には置かなくなつた。ぬいぐるみに対する畏怖の気持ちは事実が示されてから生じたもので、使用者の精神に完全に依存していると感じた。逆に、その事実を知らされなければ、ぬいぐるみを恐れる気持ちをかんじることがはなかつたと思われる。
大学B 2024	219	人形のエビソードになります。我が家にはぬいぐるみが大量にあります。特に大切にしているのは犬、パンダ、ゾウ、キノコ、レッサーパンダの四匹なのですが、折角なので一番古参の犬の話を出します。名前を「こちやむ」というのですが、この子には一応、対にあたる「おちやむ」もいます。こちやむが小さい方でおちやむが大きい方です。見た目はフラウンダーの犬そのものの。こちやむは古参も古参で、私が生まれるよりずっと前に父親が入手した子です。最初はおちやむだったのですが、父がこちやむを見かけた時に、一度はスルーしたものの、おちやむの相棒として入手されました。私が生まれた時にはすでにいたこちやむは、昔の私の写真にも写っていたりします。こちやむは私の相棒のようにずっと一緒に居ました。どこに行くにもこちやむの尻尾を握りしめて、一緒にいました。こちやむが居ないと眠れないほどには相棒だったんです。一度、ヨーカドーに幼稚園に入る前の私が落としてしまったことがあります。親は家に帰ってから気にしないことになり、夜なのにこちやむがいないと眠れないからと、父が探しに行ってくれました。売り場に落ちてしまつていたらしいこちやむはピニール袋に入れられ、置いてあつたそう。それで、母はこちやむは帰ってこないんじゃないかと思つていました。昔住んでいた場所はそんなに治安もよくなかつたので、成長もさせません、お喋りも出来ません。今でも風呂に入れて洗ったり、声をかけたりはしています。
大学B 2024	220	昔うちでぬいぐるみがたくさんあつたので、ぬいぐるみと私でよくごっこ遊びをしたり、新しいぬいぐるみが来たときは人形を並べて迎え入れる儀式を1人でやつていたことを思い出した。祖母からお土産でもらつたクマのぬいぐるみは特に気に入つていて名前をつけてよくいるんだとごっこ連れていき、夜寝るときも一緒に寝ていたことを思い出した。今もまだベッドに飾つてある。私は人形やぬいぐるみを捨てたこととは無く、手放すときは、ガサーンにだすか寄付している。ぬいぐるみは愛着があるため、捨てるという決断はなかなかしにくく、いつか、ガサーンにだすという選択をしている。使わなくなつた五月人形があり、まだ処分していないが、処分するとなつたら神社で供養してもらおうと家族で話したことがある。

「人形」との交流

大学B 2025	221	<p>小学生の時、クリスマスプレゼントでうさぎのぬいぐるみ（結構大きめ）を妹とおそろいで2体もらったのですが、本当に生きていると思いつんでいたのでお小遣いで野菜の購入を買ってあげていました。それを親に見つかるのがなんでもか恥ずかしかつたので、妹と隠れてやっていったのですが、夏の時期にそれが原因でこばえが発生してしまい結果的にバブルしました。</p>
大学B 2025	222	<p>大事にしていて人形のエピソードで思い浮かぶのは、動物園で買ったヘビのぬいぐるみを引っ越しの際に手放した時に強い罪悪感を覚えた事です。そのぬいぐるみを大事にしていたかと言えばそんなことは無く、家のソファの上には放置していただけであったのにも拘らず、いざ捨てるとなった時にはなかなか踏ん切りがつかず、まっせんした。他にもさまざまなぬいぐるみ、人形やプラモデルを所持して手放してきましたが、自分は物を手放す際にぬいぐるみとなるとなせか他の物よりも強い罪悪感を覚えてしまう性質をいつの間にか備えていたようです。</p>
大学B 2025	223	<p>うちでは昔小型犬を飼っていて、数年前に死んだのだが、去年に母が亡き犬と同じ犬種の犬の、掌に乗せられるような小さな置物を買ってきた。正直そんなに似ていないが（買ってきた母は知らないが、家族全員が同じように「あまり似ていない」という認識を持っている）、我が家ではそれが玄関に置かれて「亡き犬」の代理として時々見つめられている。立体物だからか、置き物のデザインが細かいからか、何故か本犬の生前の写真よりも似ていないそれを見る方がずつとそこにいるような気がしてしまふ。べたべた触れて抱きしめることのできるぬいぐるみではなく、触らずにじつと見ていることが当たり前の「置き物」だからこそ何故か愛に胸に迫ってくると思う。返事が返ってこない、本犬でもないからこそかえって重ね合わせてしまふような。妹が無類のぬいぐるみ好きなので、家には主に妹のぬいぐるみが沢山ある。特にデザインニーのクマが多く、匂い頃は（妹が）着せ替え遊びをしたり、どこにでも連れ歩いて楽しんでた。小さい頃、私が意地悪をしてぬいぐるみを叩くと、妹が自分の身体の同じ部位をおさえて「いたいよー」と泣きだしたり、妹自身にもしつほがあると思いきや、こんでいたり、と、妙にぬいぐるみに共感性を持って向き合っていた。私は父から継承した木馬や、ロゼイ（ぶにおにした馬のおもちやで、乗ることができ）に名前をつけ、やたらと可愛がっていたが、これもぬいぐるみや人形のカテゴリーに入るのだろうか。相棒だと思っていたことをよく覚えていてる。</p>
大学B 2025	224	<p>私自身、匂い頃から大切にしていたぬいぐるみがあり、今でも実家に保管されています。それはサンリオのソナエロールのぬいぐるみで、物心がつく頃から常に一緒に過ごしてきた特別な存在です。外出する時も、寝る時も肌身離さず持っていたため、手放すことができません。</p>

大学B 2025	225	小さい頃、某有名なお世話人形を持っており、声をかけては反応を伺ってみたり、また生えてくるかなと思ひ髪のをカットしてしまったり、ドライヤーをかけてしまったりしながら、コミュニケーションの相手になっていました。私は、小学2年生の頃に愛犬が急死してしまったのですが、ある日家族と出かけて愛犬と扱っているトイ・プードルのぬいぐるみを偶然見つけ、愛犬の代わりのようにしばらく大切にし、一緒に眠ったり、出かけたりにしていました。時間が経つにつれて悲しみも癒えていき、ぬいぐるみも今はしまっておりませんが、まだ死を受け入れられてなかった当時は、実際には命を持たず動けなくとも、代わりとなるような存在があることで、側に感じられる気がしていました。
大学B 2025	226	私の家では、小さい頃からずっとくまのぬいぐるみを大事にしている、寝るときも旅行のときも必ず一緒でした。ポロポロになってきてもなかなか捨てられず、今でも部屋の棚に飾っています。ただの物なのに思いつき話まっついで簡単に手放せない。
大学B 2025	227	私自身も以前は多くの人形を持っていましたが、数が増え過ぎてしまい、廃棄をするために一度神社で供養をして頂いた事があります。どここの神社であったか詳細は忘れてしまいましたが、その時は神社の中に流れる川に人形を流してから供養をして頂きました。
大学B 2025	228	雛人形は毎年飾り、毎年丁寧に保管しているので大切にしていると思う。ぬいぐるみは個人的に大切にしているものはあるが、家族で大切にしているものはない。
大学B 2025	229	棚に置かれたオルゴールのついた雛人形を供養しようと動かす寸前に、何もしていないのにオルゴールがなり、それ以降なにもしていない。
大学B 2025	230	引越しの際に、子供の頃から大事にしていたぬいぐるみを数体、神社に供養しに行った。リサイクルショップ等に売ることも考えたが、引き取られずに結果的に処分されても可哀想なので、今までの感謝の気持ちも込めて、供養することに決めたが、供養を選択した背景心理としては、ぬいぐるみ一体一体に思い出が残り、命が吹き込まれている感覚があったので、「捨ててる」という行為は絶対にしたくないという思いがあった。
		また、小さい頃に名付けた「はなちやん」という行方は絶対にしたくないという思いがあった。
		またはや家族の一員レベルの存在感を持っている。小さい頃から友だちや妹のように接し、名付けて可愛がっているぬいぐるみは、私や家族の中で、“ただの人形”という域を超えているのだらうなと感じた。
大学B 2025	231	私は2歳のころ東武動物公園で購入した犬のぬいぐるみは今も大切に傍に置いています。名前はチョコチップなですが、昔から彼女の目を見ていると生きているかのような、何か訴えかけるような可愛らしい目をしているな、と思う。
大学B 2025	232	家のソファに置いてある犬のぬいぐるみと雀のぬいぐるみはペットのいない私の家ではペットのような存在である。勝手に弟が名前を付けたり、定期的に日光に当てると、人形としての務めをしっかりと果たしていると考えられた。

大学B 2025	233	私が小さい頃、毎晩一緒に眠っていた人形があります。小さな人形でしたが、毎日肌身離さず過ごすうちに、その人形は私にとってかけがえのない存在となりました。長年の使用によって色褪せたり、綿が偏ったりと痛みも出てきました。それすらも私との思い出の一部のように感じていました。処分する際には、ただ捨てるのではなく、家族と相談して神社で供養してもらいました。特に強い宗教的な理由があったわけではなく、自然と「そうするべきだ」と感じたのです。
大学B 2025	234	一緒に寝るぬいぐるみには名前をつけている。ただし、既に名前が付いている個体（まぼちやんのよう）にはあまり名前をつけない。ポケモンのぬいぐるみは例外であり、すべて別個体であるから自分の子の証として名前をつける。 ぬいぐるみはおしやべりしたり動いたりする。母も私もパペットのような感じてぬいぐるみに喋らせ、手を持って動かせて感情を表したりする。たまに母がぬいぐるみでお見送りをしてくれる。ぬいぐるみ同士もおしやべりする。 食事は実際の食べ物に対して食べるふりをする。もしくは飼い主と胃が繋がっており、飼い主が食べた物が共有される。飲み物も飲むふりをする。
大学B 2025	235	私はスヌーピーのぬいぐるみを赤ちやんの頃から大切にしていた。本当に可愛かったが叔母の幼少期からのものであったためかなり年季が入り周りからは「ボロ」と呼ばれていた。小学校高学年の頃、考え方の古い両親から「お前は男の子なんだからぬいぐるみを持つな」と言われ、渋々押し入れに閉まっているが、受験合格や誕生日など、何かある事に未だに押し入れから取り出して、自分が成長した事を報告している。私にとって、一生の友達である。
大学B 2025	236	かすかな記憶ではありますが鳥羽水族館で買ったジュエゴンのぬいぐるみを大切にしていた記憶があります。日本で唯一ジュエゴンを飼育していた水族館が鳥羽水族館でその珍しさと可愛さからなかなか捨てられずに大切にしていた記憶があります。
大学B 2025	237	実際、私の家族も、母が子どもの頃に使っていた雛人形をお寺で供養してもらったことがある。その経緯としては人形をそのままゴミとして処分するのは可哀想だという思いと、ゴミとして捨てることで、バチが当たるのではないかという不安があったためである。
大学B 2025	238	父方の祖父母の家に市松人形のような人形がショーケースに保管されている。父が子供の時からあったと聞いているが詳しいことはあまりわからない。
大学B 2025	239	私は、いまだに亡くなった祖父からもらった人形（しろくま）を大事にしている。高校生の時に留学に行った際も、守り神のような思いで連れて行った。

「人形」との交流

大学B 2025	240	私の家にある人形で一番思い起こされるのは、赤ちやんの人形でまだ捨てられずにいる。私と妹で遊ばれてきたが、有名なメルちゃん、ほろもちやんとは違うのよでなんとという商品かはわからないが同じものはみたことがない。だからこそ愛着があるように思うし、「ごめんたん」というよくわからない名がついていることも理由の一つになるだろう。
大学B 2025	241	中学生くらいまでは自分の部屋に色んな種類のぬいぐるみが大量にありました。置いてあるだけで全く触ってなかったです。なんとなく怖かったので「ごめんね、ありがとぅ」の気持ちを送めながら一気に処分しました。
大学B 2025	242	家で大事にしてるぬいぐるみは、私が1歳の誕生日プレゼントでもらった80cm位のぬいぐるみである。そのぬいぐるみは「ぐまたん」という名前がいつの間にかついていて、ずっと一緒に暮らしている。何処へ行くにも一緒に、大阪旅行にも連れていったことがある。その時は新幹線でいったが、2人が別の席で、2人の真ん中に座らせて乗っていた。家族も大事にしている、毎日毎日とっちらが一緒に寝るか取り合いをしている。最終的に自分の方に譲ってくれるが、その時間が家族団圓の時間を生み出していると考ええる。
大学B 2025	243	ゴールデンレトリバーのぬいぐるみ「なつみちやん」を今でも大切にしている。IKEAで買ってもらったのが最初で、物心ついた時からずっと一緒にいる。毎晩、布団をかけてあげて隣で寝かせているくらい、家族のような存在である。もう16年以上はうちにおいて、汚れてしまっているが、大切にしている。
大学B 2025	244	特段大事にしていた人形というわけではないが子供の頃持っていたフイギョアや人形には必ず近くに同じようなフイギョアや人形を隣に置いて寂しくないようにとじていたのを記憶している。
大学B 2025	245	私は幼少期からぬいぐるみや人形を沢山持っていました。メルちゃんやリサちゃん人形を見て、「夜になつて、髪が伸びていたらどうしよう」なんて、母が冗談を言っていたのを覚えています。また、「人形はそのまま捨てられないよね。なんか怖い」と母は言い、なかなか捨てられませんでした。結局どんどんど壊きにしたものばかりです。動物モチーフのキーホルダーや、動物のプラスチックに出すのに、人形の形をしたものばかりです。そのうち捨てられなくなったか不思議です。人の形をしているのかなのか、我が子を育てるかのような遊び方をしたから捨てられぬいぐるみかはわかりませんが、家には3歳くらいの子どもと同じような体型・身長をしただけのぬいぐるみがあり、そのぬいぐるみに私は小さい時に着ていた洋服が着せられて、今も大切に飾られています。
大学B 2025	246	2011年に東日本大震災が起こった際、いつまでもすぐに避難できるようにぬいぐるみを一つだけ選んで用意しておくようにと親に言われた。しかしどれも大切にしていたので、選ばれないぬいぐるみを可哀想に思ってしまう、泣きながら一つだけ選んだ思い出がある。私は幼い頃、シルバニアファミリーという動物の人形がお気に入りだった。ある程度成長しておもちゃ等を片付けるとなった時、シルバニアファミリーのおもちゃの家や家具は処分したが、人形たちはどうしても捨てる気になれず、今も人形だけに大切に保管している。

大学B 2025	247	小学生の時に動物のフレイズを大切にしており、それらを使ってごっこ遊びをしていた。今も部屋に大量にあるが、それらを捨てることは動物たちを捨てるだけでなく、ごっこ遊びでその動物たちがなっていた対象も捨てしてしまうことになると感じており捨てられずにいる。
大学B 2025	248	人形の思い出について、私は母が編んでくれたあみぐるみが一番思い出に残っている。既製品よりも手づくりの方が温かさがあると思う。
大学B 2025	249	我が家で大事にしているぬいぐるみは、母が小さかった時にアメリカで購入し、今も娘である私が毎日のように大切にしているテディベアです。今でもベットと一緒に寝たり、家では自分の一番近くにいる大切な存在です。生きていないとはわかっていても、まるで生きているかのように振舞っています。
大学B 2025	250	私も幼少期から今でも部屋に飾ってある犬のぬいぐるみに名前を付けている。
大学B 2025	251	私は幼少期からぬいぐるみが好きで、特に祖父から買ってもらうことが多かった。部屋の大掃除をする時に、断捨離をしようと思い、大量のぬいぐるみを手から離す決断をしたことがある。その時に、祖父の紹介で人形供養をしたことが2回ほどある。地元の人から、「そんなところがあるんだー」と珍しがられたことがあった。家で大事にしているぬいぐるみについて、最近推しのぬいぐるみを買った。推し活の一環で、「ぬい活」というものがあり、推しのぬいぐるみをおしゃれなカフェや旅行先に連れていく文化がある。tiktokでは、TWSという名前のKPOPアイドルの、「If Im S, Can You Be My NP?」の楽曲に合わせて推しぬいを振り返らせる動画が流行っている。
大学B 2025	252	私自身人形を捨てることにはかなりの抵抗感があり、小学生のころから持っているものもある。また供養するまでにはいかないが「ごめんね」と言って捨てる。人形は感情を持たないが、自身が楽しいときや落ち込んでいるときも一緒にいたため、心を通わせているような感覚もある。
大学B 2025	253	ぬいぐるみを捨てがたいという経験をしたことがあった。また一度手にしたぬいぐるみの目を見ると訴えかけられていようでなかなかなか手放せないということもあった。
大学B 2025	254	現在家で大事にされているぬいぐるみに、家族が好きなキャラクターのイメージカラーをそのキャラクターの大きな目や口のキョロキョロのぬいぐるみではなく、テディベアをそのキャラクターをそのキャラクターのぬいぐるみでなく普通のテディベアである。
大学B 2025	255	小さい頃に大切にしていた、メルちゃんという人形は、お姉ちゃんと一緒に買ってもらい、幼稚園児時代にはままだに憧れてメルちゃんをおんぶしていた。また、髪は伸びてくるものだと思っていたからメルちゃんの髪の毛をショートにしたが、当たり前のように伸びてこず短いまだだった。また、メルちゃんはすぐとりピンクにいたため、収納している時も頭だけで常に見られていたような視線を感じることも多くあった。今ベッドにいた多くのぬいぐるみは、ぬいぐるみであるが、冬は寒いから掛け布団を掛けてあげよう、というようにしている。またいくつも腕に抱えて寝ていて、安心する存在になっている。

「人形」との交流

大学B 2025	256	私は、小学生のころにクレイオンゲームで取ってきたマリオの人形を持っている。この人形はややチーząなつくりをしており、ピチオゲームに登場するマリオとはあまり似ていない、再現性の低いものだ。しかし、私はこの人形を気に入っており、幼いころはスチージに見立てた自宅の中をマリオ人形を操って遊んでいた。つまり、マリオの代わりである人形を自分に見立てていたのである。自分の分身を廃棄できるはずはなく、人形は今も実家で大切に保管されている。
大学B 2025	257	サンリオのはなまるおはけというキャラクターのぬいぐるみをいつもバッグに入れて持ち歩いています。友達と映画スポットに行く時や、美保しそんなご飯屋さんに行く時、またドラゴンやチーząパークに行く時など、様々な場面と一緒に居ます。もちろん、大学にも連れてきています。ぬいぐるみを持ち歩くこと愛いのでテンションが上がります。また、自分だけではなく最近の若い女の子達はぬいぐるみをバッグに付けたりして持ち歩いている子が多いようです。
大学B 2025	258	私自身は置物として考えていて引越しの際に捨てられるものいくつかある。
大学B 2025	259	ぬいぐるみをよく購入しますが毛のフサフサ具合や顔のバランスなど個性差を意識して買っています。その個性差でこの子を手を取ったことは運命だ！と感じます。Xでぬいぐるみ界限があるのですがぬいぐるみは此護対象として一緒にお出かけしたりする人が多いです。
大学B 2025	260	思い返してみると人形や大事にしていたぬいぐるみを捨てるようになった時によく怒っていたのを思い出します。私は家に小学校一年生の時から使っていたぬいぐるみ(クワジヨン?)のようなものがあります。それはお母さんがUFO キャッチャーで取ってくれた気がします。思えば入れがあるのでもまだ捨てられないです。
大学B 2025	261	去年の9月に家族で引越しをしたのですが、その際に子供のころからあった赤ちゃんの人形を捨てました。捨てる際に小さいころからあるものだし、少し不吉ではないかと家族で話題になりました。引越してバスタバクしていったということもあって結局捨てた。
大学B 2025	262	私の家には、等身大とまではいかないけれど、結構大きなハンギョウのぬいぐるみがかいて、そのハンギョウに私は毎日話しかけています。「おはようハンギョウ」「今日も眠いよ」「疲れたバオトやめたいよ」「イライラしてるからこつち見ないで」などそのときのテンションや感情を垂れ流すように話しかけています。もちろん返事はないのですが、むしろそれかようといいです。喋らないからこそ私は安心して何でも話せるし、愚痴も傾り言もハンギョウは絶対に否定もツッコミもしてこない。笑いもせず、ただあのアホっぽそうな顔で全てを受け止めてくれるのがもすごく楽です。人間相手だと「そんなに疲れてるの?」「もつとボジョイアに考えたら?」など、ありがたい言葉が返ってくることもあるけれど、今はただ聞いてほしいだけにハンギョウに考えたら?などただ聞くことに徹してくれます。友達に話しても理解されたことがないので、ぬいぐるみとおしゃべりするの案外楽しいのになと思います。

大学B 2025	263	私の祖母の家にある人形で大切にしているものがあり、それは私が5歳の時に祖父が買ってくれた当時の私と同じくらい大きさの五月人形です。当時の私に似ていたらしくてガラスケースの中で今でも大切に保管されています。
大学B 2025	264	個人的にとりより家庭内で大事にされていたぬいぐるみは兄が私の3歳くらいの誕生日にくれたアーさんの人形が割とそれに当たると感じている。私は当時の記憶がなかったもので、めっちゃくちゃ大切なものという意識はあまりないが、親がそのやりとりを特別に思ったらしく、定期的にその話を聞かされた。今どこにあるのか知らないが、どこかにはあると思う。また、個人的に大事な人形だと小学生の頃に買ってもらったビシク豚のぬいぐるみがいつも一緒に寝ていたので大切に思った。
大学B 2025	265	幼い頃から人形やぬいぐるみが好きで、自分の好きなアニメなどのキャラクターのぬいぐるみやシルバニアファミリー、リカちゃん人形などでおままごとをして遊ぶことがかなり多かったように思う。ただその扱いはかなり雑で飽きたら捨ててしまおうか、その辺に放置してそのまま無くしてしまうことが多い。大切に扱うことはあまりなかった。
大学B 2025	266	私が小さいころから大切にしているぬいぐるみに薄茶色のくまと茶色のくまがいる。特に名前を付けているわけではないが、あまり大きくなく、持ち運びやすいのでおままごとによく登場させて遊んでいた。一人の子の私は遊び相手がいなかったらので、この2体を兄弟に見立てて会話させていた。雨で外遊びのできない日などは特にこのぬいぐるみたちの存在が非常に大きかった。
大学B 2025	267	大事にしているぬいぐるみのエピソードとしては、印象に残っているのが2つあります。1つは、そのぬいぐるみを肌身放さず持ち歩いてきた時になくしてしまったとき、そのぬいぐるみのおもちゃを、とても大切に友達だと思っていたので、悲しいと同時に寂しいと思ったことです。色々なところを探し回って、結局ぬいぐるみは家にいたので、見つけた時に本当にうれしく安心してしまいました。2つ目は、ぬいぐるみを試合に持って行ったことです。試合前で緊張していて落ち着かない時に触ったり、本番の直前に触ったりすることで、精神的に落ち着いて、集中することができました。
大学B 2025	268	昔水餃店で親が弟に買ったペンギンのぬいぐるみを、弟がぬいぐるみを好むような年齢でなくなつたあとも、足の部分が取れたら縫い付けたり、ほつれた部分を縫い直したりして、私のぬいぐるみとして今も捨てずに持っています。
大学B 2025	269	小さい頃は何個もぬいぐるみを持っていたが、いつの間にか(いつ処分したのか記憶もない)1番お気に入りだった一体だけになっていく。そのぬいぐるみも耳がらざれかけていて、もう捨てても良いような古びた状態だが、長い間連れ添った仲なのでその一体だけは処分できずにいる。しかし、別に見える場所に飾ってるわけでもなく、収納ケースの奥深くに眠っている状態で長年放置しているの、愛着があるのかと問われると回答に困ってしまう。

「人形」との交流

大学B 2025	270	昔クレーンゲームで取った大きなぬいぐるみか、部屋の模様替えに伴いどうしても置き場がなくなってしまう、捨てるのも忍びなかったため高校の部屋に置いてきたことがあります。今でも文化祭の時期には脚光を浴びており、第二の人生？を与えられたのではないかと思っています。
大学B 2025	271	自分が小さい頃はクリスマスのお菓子についていたクマの人形をとても大切にしていたのですが、成長するにつれいつのまにかいなくなってしまうました。また、叔母がとても好きなキヤクスターである、井上トロという猫の人形が祖母の家に大量にあって少しかわいそうだったので、そのうちの1匹だけ自分の部屋に連れてかえったりしました。
大学B 2025	272	私が生まれる少し前に母の友人が私のために用意してくれたぬいぐるみかいた。ラモフモさんという名前のぬいぐるみで家では「ふもさん」と呼ばれていた。彼女は赤ちゃんだった私の横にいつも寝かされていて母たちはふもさんを私のお姉さんみみたなものだと言っていた。小学校の低学年くらいまではずっと一緒にいて、1歳の時神輿に行った時も一緒に飛行機に乗った。ふもさんは私のことを見守り続けてくれていて、今でも彼女には感情がある気がする。
大学B 2025	273	私が大事にしていたぬいぐるみは黄色でお腹にキリンが描かれたCare Bears シリーズのクマのぬいぐるみでフリースーツでお父さんが買ってきてくれたものですが、小学生位の頃に無くしてしまっただけから見つからず、大きくなってから売ってないかと調べてみましたが、いくら調べてもCare Bears シリーズで同じ種類のぬいぐるみは出てこず大切にしていたのはバチモロだったと友人になってから知りました。お姉ちゃんが大切にしていたぬいぐるみはクマのぬいぐるみだと思っていきましたが久しぶりに見てみたらしっぽが長く顔はクマで体は狸の不思議な生き物を大切にしています。もし今の私だったら、バツリのぬいぐるみや、変な生物のぬいぐるみは買わないとは思いますが、子どもにとってはそれがバチモロでも愛でも関係なしに特別な友達なのだと実感しました。
大学B 2025	274	特に大事にしていた人形とかはなくて、小さい頃、家になくさんぬいぐるみとかフグエアがあってそれで兄と人形ごっこをずっとしてたなと思います。
大学B 2025	275	中学のころ、断捨離した際に母に目と鼻と口があるものを捨てるって言われると言われる状態に持って行きたいか何も行動せずクローゼットの上にビニール袋に入られて大量のぬいぐるみか眠っている。
大学B 2025	276	私が今も大切にしている人形は、犬のぬいぐるみです。去年東京に引っ越してきたと同時にその人形を買い、実家にいる犬の代わりとしていつも一緒に寝ています。昔も人形が私は好きで買っていたのですが、やはり多すぎると捨てるくちや行けない時が来て、人形はずっと一緒に暮らすと命を宿するという言葉を信じていて、幼少期はとも捨てるのが怖かったです。
大学B 2025	277	私はぬいぐるみが好きで、昔から親に捨てるように言われても愛着があるためなかなか捨てられないことが多い。そのため、最近捨てるのが嫌だから買わないようにしている。

<p>大学B 2025</p>	<p>278 私はぬいぐるみが大好きで特に3歳の誕生日の時に買ってもらった某キャラクターのぬいぐるみをずっと大切にしています。そのぬいぐるみに対して、私は誰にも話せないような悩み事を話すことがあります。当然返事は返ってきません。しかしそれがむしろ心地よさを生むこともあると思います。私はぬいぐるみに対して必ずしもコミュニケーションの相互性を求めません。“話しかける”という一方的な行為の対象としてそこに存在してくれることだけで繋がりを感ずることも可能なのではないかと思っています。</p>
<p>大学B 2025</p>	<p>279 家で大事にしているぬいぐるみは二つある。一つ目は、私が三歳のころにおばあちゃんから誕生日プレゼントとしてもらったくまのぬいぐるみだ。当時は寝るときも一緒に寝たし、足が切れてしまったときも母に縫って直してもらった。そのくらい大切にしていた記憶がある。今は押し入れの中にしてしまっていて使うことはないが、一生捨てられないものだと思う。二つ目は、これは私個人が大事にしているものだが、キャラクターグッズのぬいぐるみだ。美用・観賞用・保存用として複数個同じのを持っている。</p>
<p>大学B 2025</p>	<p>280 小学校で飼っていた羊が赤ちやんを産んだのですが、生まれて数日で空に飛立ってしまいました。そのときに、みんなで粘土でその子の人形を作って色もつけて、赤ちやん羊そっくりの人形に毎日(キリスト教の学校だったことも関係あるかもしれませんが)お祈りしていました。最後人形どうしたのかは覚えてませんm(_ _)m</p>